

広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034



令和7年 7月

広瀬川創生プラン策定推進協議会
仙台市

広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034

目次

序章 広瀬川の魅力	1
1 広瀬川の特徴	3
2 広瀬川の環境改善の取組み	9
第1章 広瀬川創生プランとは	11
1 策定の背景と目的	13
2 広瀬川の範囲	15
3 計画の位置づけ	16
4 計画期間	17
第2章 目指す広瀬川の姿と目標	19
1 基本理念	21
2 基本目標と施策の方向	25
第3章 推進体制	35
1 推進体制	37
2 各主体の役割	38
3 活動の支援	39
第4章 推進状況の評価	41
1 1年ごとの取組状況の把握	43
2 計画期間ごとの推進状況の評価	44
参考資料	45
1 広瀬川創生プラン改定の検討過程	47
2 広瀬川に対する市民意識調査（概要）	49
3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査（概要）	56
4 広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿	57

序章

広瀬川の魅力

- 1 広瀬川の特徴
- 2 広瀬川の環境改善の取り組み



愛宕堰付近の広瀬川と仙台の街並み



郡山堰付近の広瀬川と仙台の街並み

1 広瀬川の特徴

広瀬川は次のような「流域の豊かな自然環境」、「都市部に位置する自然崖の壮大な景観」、「動植物の良好な生息環境」を有し、人々を引き寄せる潜在的な魅力があります。

(1) 広瀬川と仙台のまち

広瀬川は、青葉区作並地区の関山峠付近を源流とし、若林区日辺地区で名取川に合流します。

名取川と合流するまで市域内で完結しており、その流域面積は市域面積のおよそ半分を占めています。

上流域には鳳鳴四十八滝などの景勝地や豊かな自然があり、さらに都市部が位置する中流域でも美しく壮大な自然崖や緑の景観を気軽に楽しむことができます。

日本の多くの都市が河川の下流域や河口域に発達していますが、仙台市の市街地は中流域の河岸段丘上に発達しているのが特徴です。

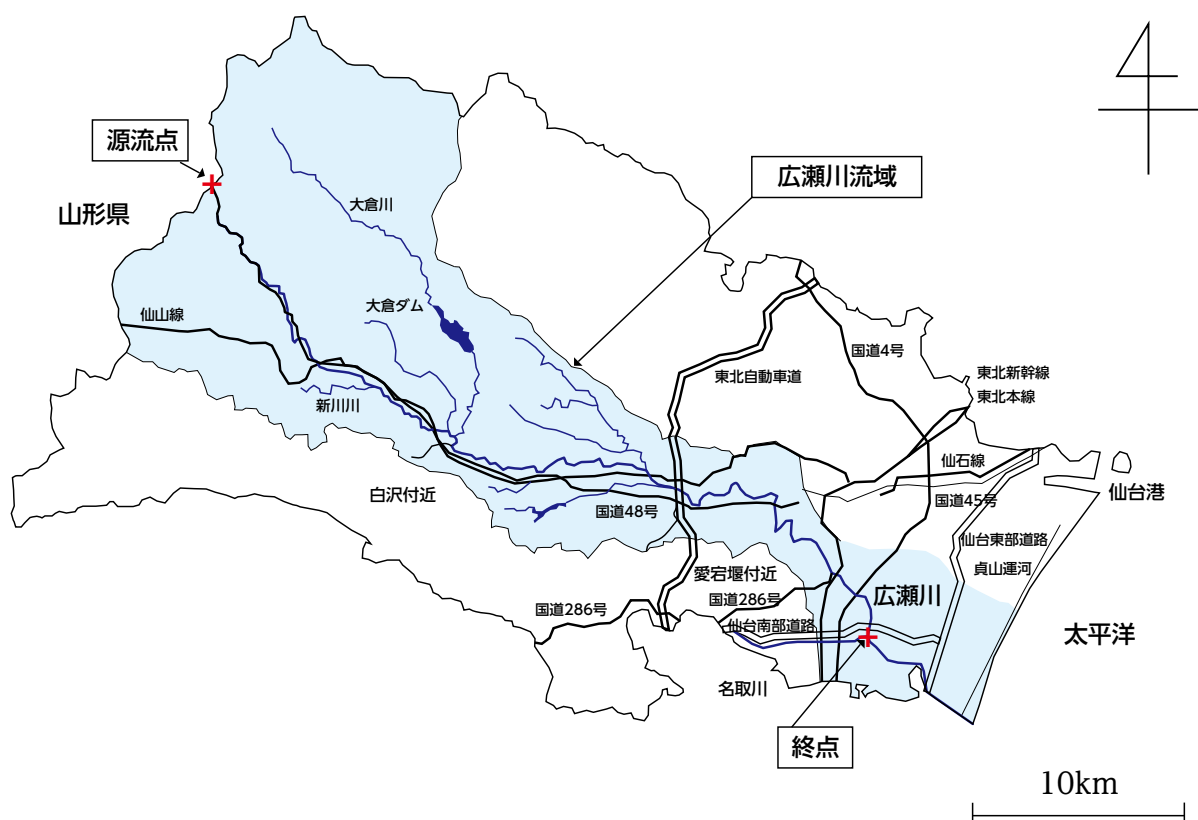
仙台藩祖である伊達政宗公が仙台城を居住地に選んだ理由には、南は竜の口溪谷、北は沢、西は奥行き深い山林、そして東は全面約60メートルの断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害となっていることが理由のひとつとされています。

さらに、政宗公は河岸段丘の地形を巧みに利用し、広瀬川から四ツ谷用水を城下に導いたことで、仙台のまちの発展に大きく寄与しました。

68年の生涯を送った政宗公は、今もなお、広瀬川を見下ろす経ヶ峯で仙台を見守っています。

広瀬川の概要

水系	・名取川水系
種別	・一級河川
流路延長	・約 45km：関山峠付近から名取川合流地点まで
流域面積	・約 311km ²
規制等	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬川の清流を守る条例 ・仙台市屋外広告物条例 ・杜の都の風土を育む景観条例 ・杜の都の環境をつくる条例
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名水百選(環境省) / 「広瀬川」: 1985年 ・残したい日本の音風景 100選(環境省) / 「広瀬川のカジカガエルと野鳥」: 1996年





①



②



③



④



⑤



⑥

① 中流域の自然崖（米ヶ袋付近） ② 広瀬川の上流端標柱 ③ 蛇行する広瀬川（川内付近） ④ 名取川広瀬川合流点付近（出典：空から見た広瀬川／仙台河川国道事務所HP） ⑤ 仙台橋（大橋）の擬宝珠（ぎぼし）：仙台市の指定・登録文化財（仙台市博物館所蔵）、擬宝珠には銘文「仙台橋 仙人橋下 河水千年 民安国泰 孰与堯天 慶長六年辛丑 臘月吉辰 藤原政宗 門士川嶋豊前守奉造」と刻まれる ⑥ 瑞鳳殿

(2) 広瀬川の植物

関山峠付近を源流とする広瀬川は、名取川と合流するまでの間に、山地、丘陵地・台地、低地と地形が変化していく特性があり、これに伴う気候的な違いにより、広瀬川流域には多様な植生が分布しています。

山地が多い上流域では、この地帯の気候的極相林であるブナ林が広がっているほか、コナラやミズナラ等の落葉広葉樹の二次林があります。

中流域の丘陵地ではアカマツ、スギ、ヒノキ等の針葉樹の二次林が広がっています。自然崖ではケヤキ林が帯状に広がっており、青葉山ではこの地帯での気候的極相林であるモミ・イヌブナ林が見られます。

下流域の低地や台地にはコナラ、アカマツ、スギ、ヒノキ等の二次林が散在しています。



① 広瀬川源流 (クリ - ミズナラ群集)

② 作並地区ブナ林 (チシマザサ - ブナ群団)

③ 大倉ダム (クリ - コナラ群集)

④ 広瀬川緑地対岸 (ケヤキ群落)

⑤ 東北大学植物園 (モミ・イヌブナ群集)

⑥ 大年寺山 (アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林)

(3) 広瀬川の動物

広瀬川とその水辺は、多くの貴重な生物の良好な生息空間となっており、アユやサケをはじめとした魚類が約30種類、ヤマセミやカワセミなどの鳥類が約120種類、確認されています。

さらに日本の固有種であり、きれいな流水に棲むといわれるカジカガエルは、都市化による川の水質悪化に伴い一時は個体数が減少したものの、清流の復活とともに回復し、現在は上中流域でその美声が聞かれます。また、「残したい日本の音風景100選」（環境省）として「広瀬川のカジカガエルと野鳥」が選出されており、多くの生き物が生息する広瀬川は、自然に対する関心や、学びの機会を与えてくれます。



①



②



③



④



⑤



⑥

①モクズガニ（「カワラバン」提供写真）

②カワセミ

③ヤマセミ

④カジカガエル

⑤サケ

⑥アユ



- ① 仙台城跡から広瀬川を望む ② 大橋 ③ 三居沢 ④ 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートのタベ
⑤ 広瀬川中河原緑地 ⑥ 広瀬川八本松緑地 ⑦ 宮沢緑地周辺を俯瞰する ⑧ 評定河原大露頭 ⑨ 賢淵
⑩ 郡山堰 ⑪ 七郷堀とすだれ桜

2 広瀬川の水環境改善の取り組み

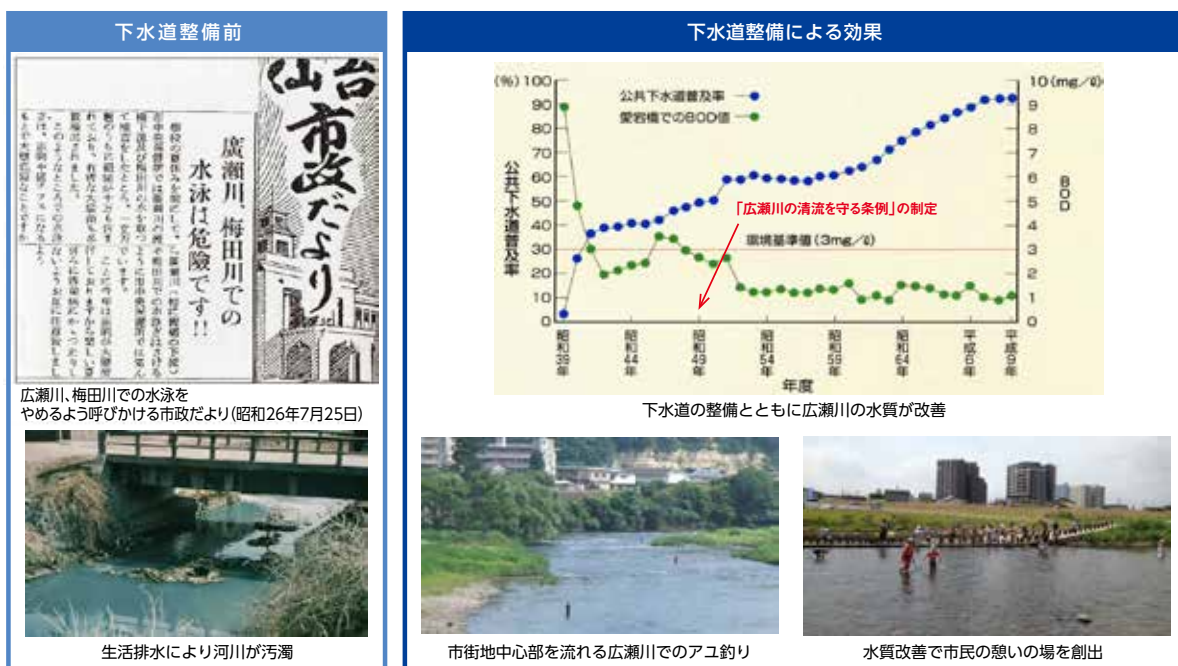
広瀬川は、古くから人々の生活を支え、都市の発展に貢献してきましたが、戦後の復興事業を終えると、経済成長とともに開発が進み、市内を流れる河川は、ごみの投棄や生活排水の流入など、深刻な環境問題を抱えるようになりました。

昭和37年（1962年）、仙台市が健康都市宣言を行い、課題であった生活環境の改善等に市民とともに取り組んできました。特に、水質の汚染が進んでいた梅田川において始まった、市民による清掃活動を皮切りに、やがて市内全域の河川浄化運動として、広瀬川を含む他の河川にも広がっていきました。また、杜の都のシンボルとしての風景や市民の憩いの場の創出を目指し、下水道の整備も並行して進めてきました。

こうした地域の環境改善活動は、市民と行政が協働で取組んだ成功事例となり、昭和49年（1974年）の「広瀬川の清流を守る条例」の制定につながったほか、これまでの取り組みが認められ、昭和60年（1985年）には環境省が選定する「名水百選」にも選ばれております。

このように、市民と行政とが共通の目標を掲げて環境改善に取り組んできたことで、広瀬川は市民共有の財産となり、「仙台七夕花火祭」や「広瀬川灯ろう流し」といった行事のほか、散策や芋煮会など市民が気軽にレジャーを楽しめる川としても親しまれています。（10ページ_写真①～④参照）

下水道整備による清流復活への取り組み



出典：下水道事業のストック効果事例／国土交通省



- ① 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートの夕べ（8月／宮沢橋付近）
② 仙台七夕花火祭（8月／大橋付近） ③ 米ヶ袋周辺での芋煮会（9月～10月ごろ）
④ 牛越橋周辺での芋煮会（9月～10月ごろ）

第 1 章

広瀬川創生プランとは

- 1 策定の背景と目的
- 2 広瀬川の範囲
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画期間



鳳鳴四十八滝

1 策定の背景と目的

(1) 策定の背景と目的

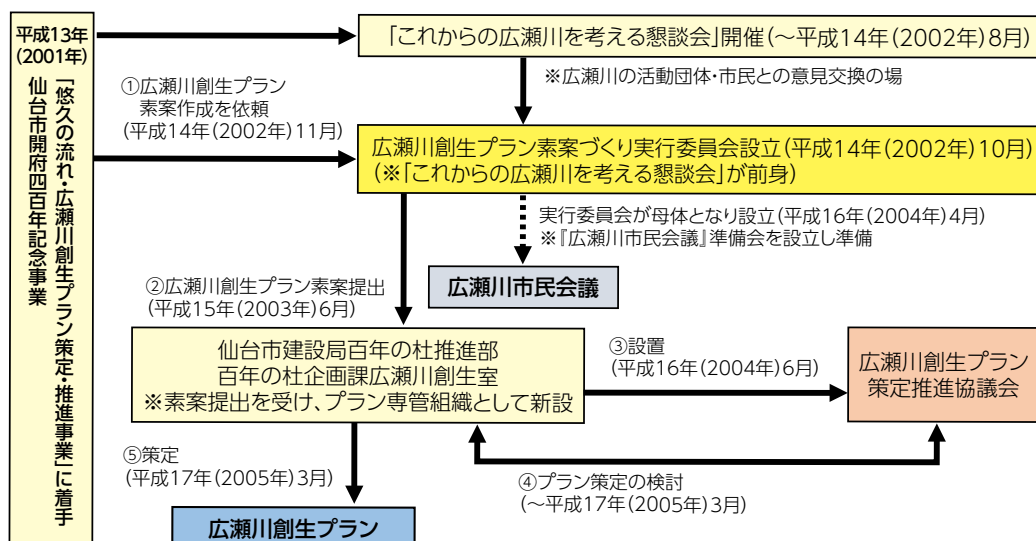
「杜の都・仙台」のシンボルである広瀬川。
藩政時代には、その広瀬川から取水した四ツ谷用水が市井を流れたことで地下水の涵養をもたらし、「杜の都」の所以でもある武家屋敷内に植樹された「屋敷林」の生育に大きく寄与してきました。また、その水を城下の生活に利用するなど、古くから市民の生活に欠かせない川となっていました。市民生活に密接な関わりを持ってきた広瀬川については、高度経済成長期の急速な都市化により水質の悪化や自然が失われるなど、広瀬川を取り巻く環境が大きく変わりつつありました。このようなことから、昭和49年（1974年）に「広瀬川の清流を守る条例」を制定し、市民と共に広瀬川の水質の改善や、周辺の自然環境及び景観の保全に努めてきました。

こうした取り組みの成果もあり、広瀬川はアユが棲む清流として広く知られ、歌謡曲や市内の校歌の歌詞に多く取り入れられるようになりました。その後、平成13年（2001年）の「仙台開府四百年記念事業」を契機に、改めて広瀬川の魅力を認識するとともに、新たな魅力を創出する機運が高まりました。

広瀬川の自然環境や景観等を次代に引き継いでいくためには、多くの市民が広瀬川に親しみ、その魅力を感じることが重要です。このため、広瀬川で自主的に活動を続けてきた知識や経験を有する市民団体やNPOなどで構成する「広瀬川創生プラン素案づくり実行委員会」が主体となって、広瀬川の豊かな自然環境の保全や川と共生する暮らし、そして新たな魅力の創出に市民と協働で取り組んでいく広瀬川創生※プラン（以下「プラン」という。）の素案を作成しました。平成15年（2003年）に同実行委員会より仙台市にプランの素案が提案され、その後、学識経験者などで構成する「広瀬川創生プラン策定推進協議会」（以下「協議会」という。）での検討を経て、平成17年（2005年）に行動計画となるプランを策定しました。

※ 広瀬川がもつ豊かな自然や動植物の良好な生息環境を保全・継承しつつ、その環境を活かした新たな魅力を創出していくことを意味します。

広瀬川創生プラン策定までの経過



(2) 改定のポイント

現行プラン（2015-2024）の計画期間満了に伴う改定に向け、令和6年（2024年）に協議会の中でワーキンググループを設置し、協議会と議論を重ねながら改定作業を進めてきました。

その中で、前提条件となる基本理念や基本目標については、今回の改定が「広瀬川創生プラン素案」の理念上の計画期間50年内であることから承継することとしております。また、同年に実施した市民意識調査や広瀬川で活動する団体へのアンケート調査結果を参考にすることとしております。さらに、仙台市が進めるグリーンインフラ※の継続的な取組みや、仙台市ダイバーシティ推進指針の観点を取入れることとしております。

検討の中では、少子高齢化や生活様式の多様化、担い手不足などの社会情勢の変化により、「活動団体同士の連携・協力の必要性」、「小規模イベントへの支援の必要性」、「更なる魅力の発信の必要性」が高まっていることや、進行管理の明瞭化などが課題であると整理しました。

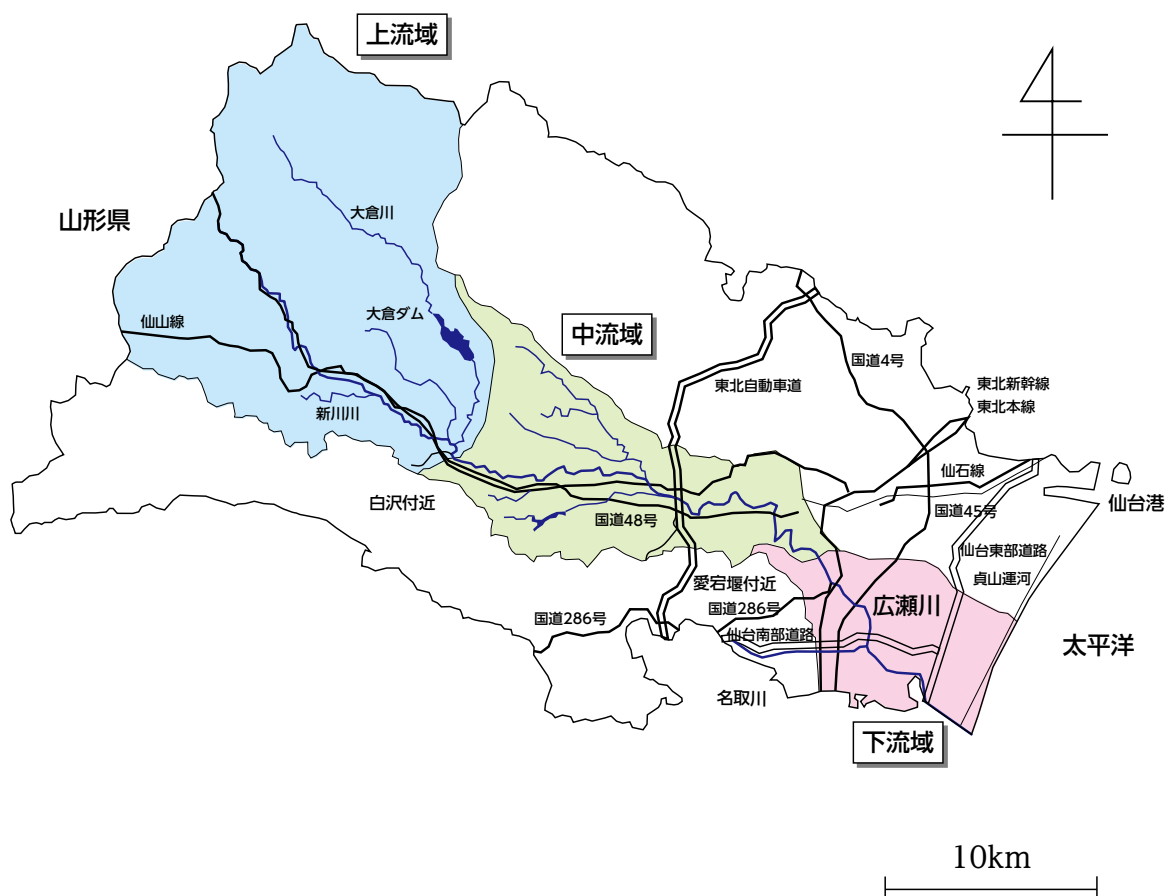
今回の改定では、これらの課題等を踏まえ、「基本理念・基本目標・施策の方向の承継」、「相互交流や連携・協力の更なる推進」、「重点事業認定制度の拡充」、「進行管理の見直し」の4つの視点に着目し、プランの見直しを行いました。

※ コンクリート等の人工構造物による従来型の都市基盤（グレーインフラ）に対して、良好な景観形成やヒートアイランド現象の緩和、水害リスクの低減など、自然環境が持つ多様な機能に着目し、それを都市基盤として活用するという考え方（取組み）。

2 広瀬川の範囲

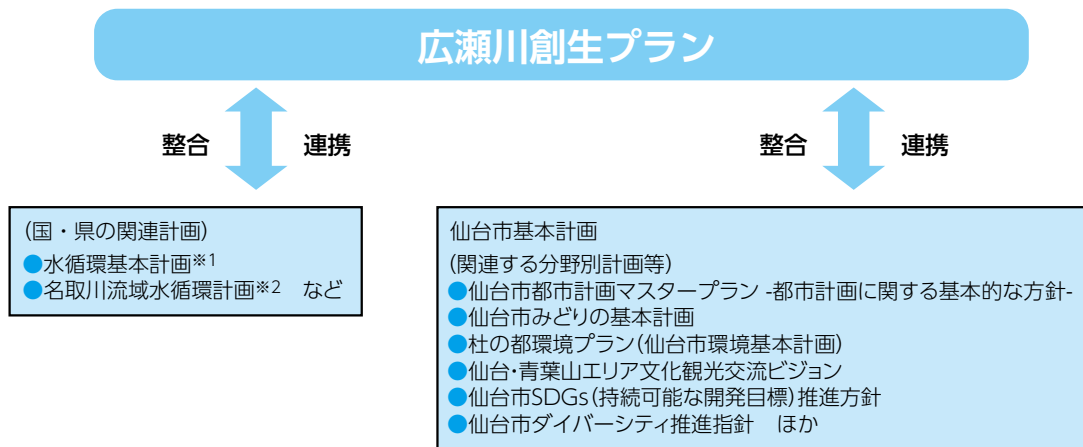
河川法に基づく広瀬川の管理区間に加えて、広瀬川の支流や名取川合流後の河口など、広瀬川に関連する幅広い範囲を対象とします。

プランにおける上流域・中流域・下流域の区分図



3 計画の位置づけ

仙台市基本計画や、仙台市都市計画マスタープランをはじめとする仙台市の関連計画、および国・県が策定する関連計画などと連携・整合を図っています。



仙台市では、まちづくりの指針となる基本計画を令和3年(2021年)3月に策定し、「杜の都」を新しいステージに押し上げるため、まちづくりの理念を「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」としました。

この理念のもと「杜と水の都プロジェクト」として、広瀬川をはじめとする水辺において、誰もが親しみやすく、楽しめる親水空間をつくることとしています。

※1 内閣官房水循環政策本部事務局ホームページ(水循環基本計画)

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/mizu_junkan/about/basic_plan.html

※2 宮城県ホームページ(流域水循環計画)

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/ryuukikeikaku.html>

SDGs（持続可能な開発目標）

仙台市では令和2年（2020年）3月策定の「仙台市SDGs（持続可能な開発目標）推進方針」に基づき、仙台市基本計画をはじめとした各種計画策定の際にはSDGsを念頭に置いた取組みを推進することとしており、プランもその一つです。

SDGsとは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載の令和12年（2030年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴール・169のターゲットを定めています。プランにおいても、SDGsの達成に貢献するため、基本目標と施策の方向に関連する主なゴールを示し、SDGsを共通理念に市民協働により取組事業を推進してまいります。



ダイバーシティの推進

仙台市では令和6年（2024年）度に「仙台市ダイバーシティ推進指針」を策定し、市民と行政の連携により育んできた都市の魅力や個性に対する市民の誇りを土台としながら、さらに発展させ、多様で調和のとれた仙台らしいダイバーシティまちづくりを進めることとしています。

広瀬川で行われる様々な取組みの推進にあたっては、担い手不足や活動団体内の高齢化などの課題が顕在化する中、人々の多彩な交流から、さまざまな経験やアイデアを掛け合わせ、新たな価値を創出していく発想が求められます。

本プランにおいては、広瀬川の良い環境を守り、育てる中で培われてきた市民協働の力を生かし、複数の主体が連携・協力しながら、多様性に配慮した施策や、新たな魅力の創出を推進します。

4 計画期間

プランの基となった「広瀬川創生プラン素案河水千年の夢－広瀬川・悠久の流れとまちづくり－」は理念上の計画期間を50年としており、これまでのプランの計画期間は、平成17年（2005年）のプラン策定時、平成27年（2015年）のプラン改定時ともに10年としておりました。これはプラン全体の目標の達成状況や社会情勢の変化に対応するためのものであり、その経過を踏まえ、今回のプラン改定についても同様に、令和7年（2025年）度から令和16年（2034年）度までの10年間とします。



①



③



⑤



②



④



⑥



⑦

① 青葉山公園 ② 第二広瀬川橋梁（JR 仙山線陸前白沢駅～熊ヶ根駅間） ③ 青下水源地 青下第1ダム
④ 新川山田橋付近 ⑤ セイコウ大橋より上流を望む ⑥ 新天狗橋から大倉ダムを望む ⑦ 新鳴合橋より上流を望む

第 2 章

目指す広瀬川の姿と目標

- 1 基本理念
- 2 基本目標と施策の方向



SUP(スタンドアップパドルボード、大橋周辺)

1 基本理念

プランの目指す広瀬川の姿として、次の三つの理念を広瀬川創生に向けた基本理念に位置付けます。

基本理念と基本目標

基本理念

基本目標



悠久の流れ・広瀬川の
自然環境の保全



i 河川環境の保全と向上



広瀬川と共生する
暮らしの発見と創出



ii 河川と共にある暮らしの実現

iii 治水・利水・親水の推進



市民による連携と
市民と行政との協働



iv 河川への関心向上

v 市民協働の仕組みづくり

基本理念Ⅰ

悠久の流れ・広瀬川の自然環境の保全 ～自然の恵みを育む“ふるさとの川”づくり～

仙台市の市街地は広瀬川中流域の河岸段丘上に発達し、豊かな自然と瀬や淵があるなど、他の都市にはない特長があります。

市民が広瀬川のこうした特長を知り、広瀬川に育まれた恵みを感じるにより、市民主体による環境保全の取組みにつながります。こうした流れが市民による「自然の恵みを育む“ふるさとの川”づくり」となります。



広瀬川と仙台市の市街地

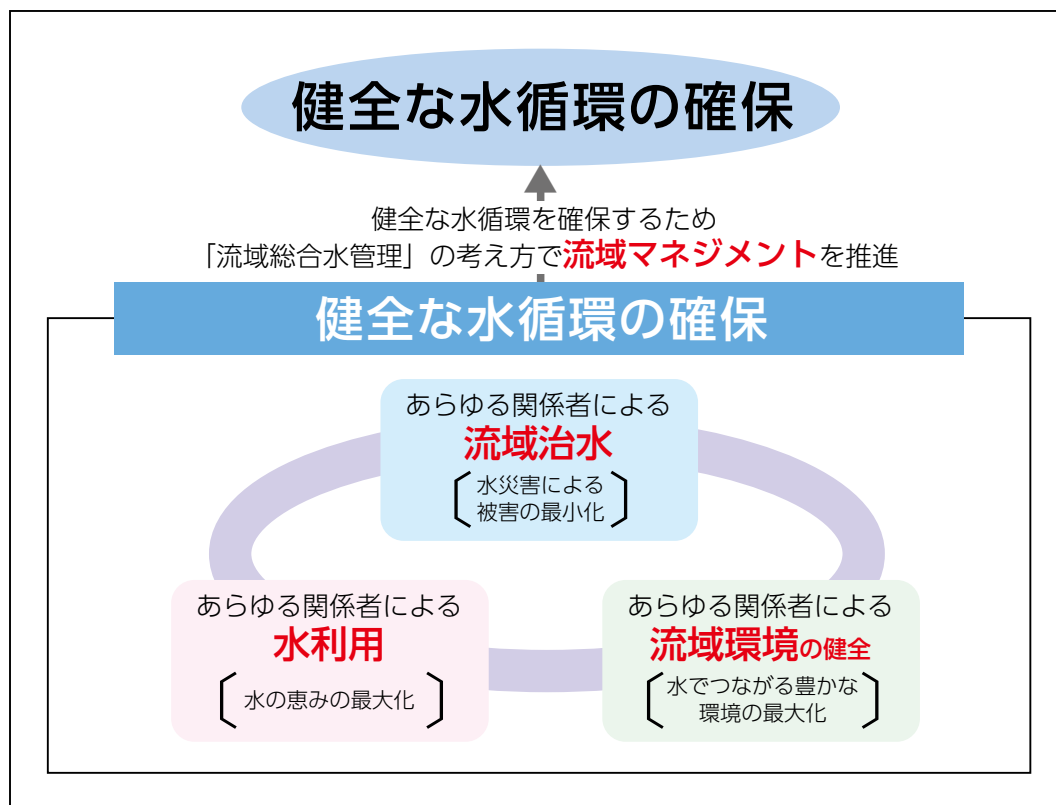
基本理念Ⅱ

広瀬川と共生する暮らしの発見と創出 ～治水・利水・環境のバランスがとれた川づくり・まちづくり～

広瀬川は動植物を育む自然を有しているだけでなく、生活用水や農業用水などにも利用され市民生活に欠かせないものとなっています。

また、広瀬川と共にある安全で安心な市民生活の実現には治水、利水、そして環境の3つの要素が重要です。

3つの要素いずれかのみを重視するのではなく、関係者で協働し要素間のバランスを図りながら、広瀬川が市民の身近な存在であることを認識し、広瀬川の魅力を最大限発揮するよう流域総合水管理※の考え方を踏まえつつ、仙台市のまちづくりのための川づくりに取り組んでいきます。



「流域総合水管理」の考え方（イメージ）

【出典】内閣官房水循環政策本部事務局ホームページ掲載資料より

(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/mizu_junkan/about/pdf/r060830_gaiyou.pdf)

※ 令和6年8月30日に閣議決定された「水循環基本計画」において位置づけられた、治水に加え、水利用・環境についても、流域のあらゆる関係者が協働し、「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」の実現を図る考え方のこと。

基本理念Ⅲ

市民による連携と市民と行政との協働 ～互いを尊重した協働の仕組みづくり～

多くの市民が広瀬川に親しんでいくためには、仙台市の取組みだけでは十分とは言えず、仙台市と市民が協働により取り組み、さらに広瀬川に関わる市民同士の連携も深めていく必要があります。

広瀬川は市民生活の近くにある分、川への関わり方や考え方は市民ひとりひとりによって多種多様です。その多様な価値観や思いを互いに尊重しながら協働できるような仕組みを作っていきます。



広瀬川1万人プロジェクト河川・海岸一斉清掃

2 基本目標と施策の方向

三つの基本理念に基づき以下の5つの基本目標を定めます。さらに、この基本目標を達成するための具体的な施策の方向性を示し、この方向性に基づく取組事業を市民協働により推進していきます。

基本理念Ⅰ 悠久の流れ・広瀬川の自然環境の保全 ～自然の恵みを育む“ふるさとの川”づくり～

基本目標

i 河川環境の保全と向上

施策の方向

- ① 広瀬川流域の自然環境の保全
- ② 広瀬川の清流の保全

基本理念Ⅱ 広瀬川と共生する暮らしの発見と創出 ～治水・利水・環境のバランスがとれた川づくり・まちづくり～

基本目標

ii 河川と共にある暮らしの実現

施策の方向

- ③ 広瀬川の健全な水循環の推進
- ④ 広瀬川に関する学びの推進

基本目標

iii 治水・利水・親水の推進

施策の方向

- ⑤ 安全安心な川づくりの推進
- ⑥ 広瀬川の水の有効な利活用
- ⑦ 水辺空間を楽しめる取組みの推進

基本理念Ⅲ 市民による連携と市民と行政との協働 ～互いを尊重した協働の仕組みづくり～

基本目標

iv 河川への関心向上

施策の方向

- ⑧ 市民への情報発信
- ⑨ 広瀬川に関する催しの実施

基本目標

v 市民協働の仕組みづくり

施策の方向

- ⑩ 市民参画型事業の推進
- ⑪ 市民活動や団体の支援



【基本目標：i】河川環境の保全と向上

広瀬川流域の動植物とそれらを育む豊かな自然環境、水環境の保全につながる取組みを推進します。

施策の方向 ① 広瀬川流域の自然環境の保全

自然や生物とふれあい、その魅力と大切さについて学ぶ機会をととして河川環境に対する市民の理解や関心を深め、広瀬川流域における動植物など豊かな自然環境を保全します。

例：多自然川づくり※や水生生物の観察学習、河川愛護会等による外来種植物調査など

※自然環境や周辺景観などと調和した川づくりを行うことによって良好な川を取り戻し、人と川との関係をもう一度作りなおしていこうとする取り組みのこと。

(引用：多自然川づくりのすがた／国土交通省)

施策の方向 ② 広瀬川の清流の保全

河川環境を保全する取組により、水生生物などの棲みかであり、水道やかんがいなど様々な目的で利用されている広瀬川の清流を保全します。

例：下水道の整備、広瀬川の清流を守る条例による保全
公園愛護協力会や河川愛護会による除草、清掃作業など



① 竜ノ口堰堤の切欠き魚道 ② カジカガエル観察会



【基本目標：ii】河川と共にある暮らしの実現

広瀬川が市民の身近な存在であることを再認識してもらえる取組みを推進します。

施策の方向 ③ 広瀬川の健全な水循環の推進

市民生活の多方面に利用されている広瀬川の水資源について、行政と関係者が連携しながら、流域全体の健全な水循環を目指した取組みを推進します。

例：渇水時における河川環境や利水への影響についての検討など

施策の方向 ④ 広瀬川に関する学びの推進

暮らしの中で広瀬川と日常的に関わってきた方々や、仙台市の教育、子育て、環境などの各部局・団体等とも連携しながら広瀬川に関する自然環境や市民生活、歴史・文化などについての学びの取組みを推進します。

例：河川教育の導入、フィールドワーク、スキルアップ講座など



- ① 東北工業大学ライフデザイン学部連携事業（学生との広瀬川歩き）
② 広瀬川ガイドのためのスキルアップ講座



【基本目標：iii】 治水・利水・親水の推進

広瀬川の安全に利用できる環境づくりとあわせて、水資源の有効な利活用や広瀬川の水辺を楽しめる取組みを推進します。

施策の方向 ⑤ 安全安心な川づくりの推進

河川管理者による治水事業や適切な河川の維持管理を進めるほか、広瀬川での治水や防災等の取組みに対する市民の理解を深めるための取組みを行うことで、官民一体の安全安心な川づくりを推進します。

例：護岸の改修や河道内の土砂浚渫
雨庭などの治水・防災等に関わる取組みへの理解を深める活動 など

施策の方向 ⑥ 広瀬川の水の有効な利活用

広瀬川の水により潤いのある市民生活を実現するため、河川管理者や利水者などが情報共有を行いながら限りある水資源の有効な利活用を推進します。

例：名取川水系渇水情報連絡会、水力発電や農業用水に関する取組み など

施策の方向 ⑦ 水辺空間を楽しめる取組みの推進

世代や国籍の違い、障がいの有無なども含め、多様な市民の誰もが広瀬川で気軽に親しめるような親水空間づくりにより、広瀬川沿いにある関連施設と連携しながら水辺の利活用を促進する取組みを推進します。

例：河川敷内の散策路や広瀬川に隣接する公園の整備、「せせらぎ水路」の整備
大橋周辺の広瀬川の水辺利活用 など



① 非かんがい期通水事業（写真は七郷堀） ② 大橋上流側「せせらぎ水路」



【基本目標：iv】 河川への関心向上

取組事業に参加する市民や来訪者を増やすため、市民等が広瀬川に親しむための取組みを推進します。

施策の方向 ⑧ 市民への情報発信

さまざまな属性や立場の方に情報が伝わるよう配慮しながら、活動団体の取組みやプランの周知・広報を行うなど、広瀬川の魅力に関わる情報を広く発信します。

例：仙台市の「広瀬川ホームページ」や「広瀬川インスタグラム」、散策マップ など

施策の方向 ⑨ 広瀬川に関する催しの実施

誰もが気軽に広瀬川へ訪れる機会を創出し、広瀬川の魅力である歴史や文化、自然環境などを再認識できるイベント等の実施に取り組めます。

例：広瀬川の自然を活かした「広瀬川自然体験学習」
まち歩き・ガイドツアーの開催 など



①



③ 広瀬川ホームページ
<https://www.hirosegawa-net.com/>



②



④



広瀬川インスタグラム
ユーザーネーム
[hiroseriversendai]



① ② 広瀬川自然体験学習 ③ 広瀬川ホームページ ④ 広瀬川インスタグラム



【基本目標：v】 市民協働の仕組みづくり

活動団体同士が連携・協力し取組事業への市民参画を促すとともに、仙台市も活動団体や取組事業を支援し市民協働を推進します。

施策の方向 ⑩ 市民参画型事業の推進

様々な活動目的や背景をもつ活動団体の知識や経験、考え方などを相互に掛け合わせることで、新たな発想やアイデアが生み出されていくよう、それぞれの交流を促進し、団体同士が連携・協力しながら市民参画しやすい事業に取り組めます。

例：広瀬川1万人プロジェクトによる一斉清掃
活動団体同士が連携・協力して実施する「水辺で乾杯」 など

施策の方向 ⑪ 市民活動や団体の支援

広瀬川に関わる市民活動やイベント等を行う活動団体を仙台市が支援します。また、団体同士の連携・協力を促進するためのきっかけづくりや新規活動に対する支援等により、取組事業の継続と新たな取組事業の創出を目指します。

例：活動団体同士の交流会、取組事業に対する仙台市の後援
広瀬川魅力創生サポーター認定制度、重点事業への事業負担金の交付 など



① ② 「水辺で乾杯！」

【各施策の方向における主な取組事業】

■施策の方向① 広瀬川流域の自然環境の保全

取組事業名	内容	主体
河川水辺の国勢調査	河川を「環境」の観点からとらえた生物調査・河川調査・河川空間利用実態調査を定期的に行う。	国土交通省 仙台河川国道事務所
竜の口溪谷多自然川づくり事業	広瀬川の支流である竜の口溪谷へ魚類が遡上できるよう、産学官民連携で支流最下流部の既存落差工へ低コストな切欠き魚道を設置した。 この魚道設置を契機に、市民団体による継続的なモニタリング調査（生息魚類調査）、ワークショップ（維持管理・修繕）、意見交換会などが開催され、市民の河川環境に対する理解・関心を深めることに繋がっている。	(特非)水・環境ネット東北 (国研)土木研究所 (大)宮城教育大学 仙台市建設局河川課
生物多様性保全推進事業	カジカガエルなど仙台にゆかりのある生きものに着目し、多様な主体と連携しながら、自然や生きものと直接ふれあい、その魅力や大切さについて学ぶ機会の充実を図る。	仙台市環境局環境共生課
自然環境に関する基礎調査	保全上重要な動植物、学術上あるいは景観保全上重要な地形・地質、自然現象などについて整理し、様々な環境施策の検討を行う。（5年毎に2年にわたって調査を実施）	
広瀬・名取川水系さけます増殖協会への参加	採卵・放流事業やふ化場管理・整備の助成などを行う協会へ参加し、さけ・ます資源の積極的増殖を図る。	仙台市経済局農林企画課
淡水魚放流事業補助	広瀬川にあゆ、いわな等の稚魚の放流事業を行っている「広瀬名取川漁業協同組合」へ補助を行う。	
外来種植物調査	外来種植物の繁茂により、河川の流水等の機能に支障が生じていることを受け、仙台市河川愛護会による外来種調査を実施し、現状の把握を行う。	仙台市河川愛護会
緑化助成・緑化木交付	広瀬川の清流を守る条例に基づき環境保全区域内での行為を許可した土地において緑化を実施する場合、助成を行う。	仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向② 広瀬川の清流の保全

取組事業名	内容	主体
広瀬川1万人プロジェクト河川・海岸一斉清掃	仙台市人口1%の1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して広瀬川流域を含む河川・海岸一斉清掃や広瀬川学校などの啓発活動を実施する。	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会
「身近な水環境の全国一斉調査」への参加（広瀬川の水質調査）	毎年6月に全国水環境マップ実行委員会が実施する「身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、広瀬川の上流から下流までの数地点の水質調査・水辺観察を行う。	(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
カヌーで河川清掃クリーンアップ広瀬川	毎年8月、お盆翌週の日曜日に開催し、広瀬川の岸辺に漂着したゴミを川の中から清掃する。	仙台市カヌー協会
広瀬川清掃	広瀬橋地区（郡山堰からJR鉄橋までの河川敷両岸）延長約800m区間の清掃活動を行う。	(特非)広瀬川の清流を守る会
みやぎスマイルリバープログラム（アドプト制度）	宮城県管理河川の一定区間において、清掃や除草などの良好な河川環境づくりに取り組むボランティア団体を「スマイルサポーター」として認定し、地域と連携して環境美化を行う。	宮城県 仙台土木事務所
水質・底質調査	河川の水質・底質（泥）及び、広瀬川の清流を守る条例の水質保全区域における工場・事業場の排水を調査する。	仙台市環境局環境対策課
仙台市公共下水道事業（宮城処理区）	平成21年に公共下水道整備は概成したが、引き続き広瀬川の水質保全、公衆衛生の向上を図るため、汚水処理施設の整備事業等を継続する。	仙台市建設局下水道計画課
合流式下水道雨天時越流水対策事業	合流式下水道について、雨天時の越流に対応するための改善事業を実施する。	
仙台市浄化槽事業	広瀬川上流域の下水道区域外で、公設公管理型の浄化槽事業を推進する。	仙台市建設局下水道調整課
河川緑地の除草・清掃	広瀬川河川敷にある河川緑地の除草・清掃を行うなど地域と連携して環境美化に取り組む。 (実施場所) 広瀬川牛越緑地、広瀬川仲ノ瀬緑地、広瀬川中河原緑地、広瀬川宮沢緑地、広瀬川若林緑地、広瀬川愛宕緑地、広瀬川飯田緑地、広瀬川八本松緑地	仙台市公園愛護協力会
河川敷の除草・清掃	広瀬川河川敷の除草・清掃を行うなど、地域と連携して環境美化に取り組む。	仙台市河川愛護会
仙台市広瀬川清流保全審議会の運営	広瀬川の清流を守る条例に基づき、広瀬川の清流を守るための重要事項を調査・審議する。	仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向③ 広瀬川の健全な水循環の推進

取組事業名	内容	主体
広瀬川及び旧沢川環境用水導入事業	流域の水循環により広瀬川の渇水問題を改善するため、既存の水路を活用して名取川から広瀬川へ環境用水を導水する。	実施: 仙台地域水循環協議会 事務局: 国土交通省 仙台河川国道事務所
河川利用の適正化検討	河川協力団体と連携し、市民目線で見た適正な河川利用のためのルール作りを検討し、河川利用者への啓発活動を実施する。	国土交通省 仙台河川国道事務所
六郷堀・七郷堀非かんがい期通水事業	市民の身近な存在である六郷堀および七郷堀をはじめとした各堀の悪臭抑制、景観改善のため、平成17年1月から開始した非かんがい期通水事業を継続する。	仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向④ 広瀬川に関する学びの推進

取組事業名	内容	主体
四ツ谷用水再発見事業	広瀬川の四ツ谷堰から取水し、かつての城下町を潤した四ツ谷用水の周知と継承を図るため、四ツ谷用水跡をたどる歩く会、四ツ谷用水フォーラムなどの啓発イベント等を実施する。	仙台市環境局環境共生課
広瀬川の魚・環境の展示	仙台市科学館の常設展示コーナーで、広瀬川の魚全種の亚克力封入標本や水槽による実物展示、広瀬川の源流から河口までの流域模型と水が流れる体感展示を行う。4階常設展示室南側の「宮城・仙台の自然」エリアでは、広瀬川全景の床地図を配置。床地図に合わせて、山地、丘陵地、沿岸部の自然を再現したジオラマや、広瀬川周辺の生き物の標本などを展示し、また、広瀬川を下流から上流へ向かって空を飛んで行くような疑似体験ができる「スカイアドベンチャー」も設置している。	仙台市教育局科学館
総合学習・自然観察会等の学習支援	広瀬川をテーマとする総合学習・自然観察会などの実施への支援・協力を行う。	
広瀬川自然展示コーナー	片平市民センター内の広瀬川自然展示コーナーにおいて、四谷用水やそれを支える仙台の地質・地形などに関して、プロジェクションマッピングを活用した展示を実施している。	
東北工業大学ライフデザイン学部連携事業	東北工業大学ライフデザイン学部の授業の一環として、学生が広瀬川に訪れ、歴史や環境などについて学ぶ機会を提供する。	(学)東北工業大学 仙台市建設局百年の杜推進課
広瀬川ガイドの養成	広瀬川の魅力を語りながら各スポットを案内する、地域の「広瀬川ガイド」を養成する。	片平市民センター 仙台市建設局百年の杜推進課
杜々かんきょうレスキュー隊事業プログラムNo5「川で遊ぼう～あんげんに・たのしく・やさしく～」	杜々かんきょうレスキュー隊事業は、杜の都仙台の特色ある自然環境・社会環境を素材に、環境NPOなどが環境学習プログラムを作成し提供する事業で、プログラムを体験し身近な自然や地球を守るために環境に配慮した行動の取れる人(＝杜々かんきょうレスキュー隊員)となることを目的としている。作成された環境学習プログラムは、市内の小中学校や保育所等を対象に実施し、普及・活用を行っている。環境学習プログラムのうちの1つ「川で遊ぼう～あんげんに・たのしく・やさしく～」は、川に入っている活動をする際に適した装備や行動、そして危険箇所等を学ぶと共に、実際に川に入って魚や水生生物を採取し観察する。	FEEL Sendai 杜の都の市民環境教育・学習推進会議

■施策の方向⑤ 安全安心な川づくりの推進

取組事業名	内容	主体
緊急用河川敷道路整備事業	大地震等の大災害時において、被災者の救援活動、被災地の復旧活動及び物資の輸送などに活用できる緊急用河川敷道路を整備する。	国土交通省 仙台河川国道事務所
非接触型流量観測(画像処理型流速測定)	治水計画立案や工事の実施、また、大規模洪水時の基礎資料を収集する目的で、広瀬橋へ画像処理型流速測定機器を設置し、非接触型流量観測を実施している。流量観測の効率化(DX)や安全管理の徹底のため、従来の浮子(高水流量観測)を用いた流速観測から非接触型流量観測に変更している。	
中洲・寄州の樹木管理	中洲・寄州の樹木や土砂について、平成17年に策定した広瀬川管理計画に基づき適正管理を行う。	宮城県 仙台土木事務所
広瀬川環境管理協議会	広瀬川管理計画に基づく管理を行い、周辺状況の変化など必要に応じて協議会を開催する。	
護岸の改修・修景	コンクリート護岸の老朽化に伴う改修を行う。また、同時に修景を必要な箇所ですら順次対応する。	国土交通省 仙台河川国道事務所 宮城県 仙台土木事務所
当事者との調整	河川敷の占用をしている人や団体との調整を行い、不法占用を解消する。(広瀬橋から下流は国が、広瀬橋から上流は県がそれぞれ実施)	
愛宕堰改修事業	老朽化の著しい固定堰を利水・治水・環境に配慮した新堰に改修する。	仙台市経済局農業土木課

■施策の方向⑥ 広瀬川の水の有効な利活用

取組事業名	内容	主体
広瀬川及び旧沢川環境用水導入事業【再掲】	流域の水循環により広瀬川の渇水問題を改善するため、既存の水路を活用して名取川から広瀬川へ環境用水を導水する。	実施： 仙台地域水循環協議会 事務局： 国土交通省 仙台河川国道事務所
河川利用の適正化検討【再掲】	河川協力団体と連携し、市民目線で見た適正な河川利用のためのルール作りを検討し、河川利用者への啓発活動を実施する。	国土交通省 仙台河川国道事務所
六郷堀・七郷堀非かんがい期通水事業【再掲】	市民の身近な存在である六郷堀および七郷堀をはじめとした各堀の悪臭抑制、景観改善のため、平成17年1月から開始した非かんがい期通水事業を継続する。	仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向⑦ 水辺空間を楽しめる取組みの推進

取組事業名	内容	主体
親水空間の利活用の検討推進	広瀬川における親水空間の利活用を推進するための検討を行う。	広瀬川市民会議
せんだいセントラルパーク構想	杜の都仙台のシンボルである青葉山や広瀬川が地下鉄東西線と交差する広瀬川流域一帯において、資源発掘や“5つの楽しみ方 佇むピクニック・巡るまち歩き・集うマーケット・知るミュージアム・食のカフェレストラン”を提案し、市民の参加・共感の輪を広げる。	(特非)都市デザインワークス
大橋リバーフロントプロジェクト	大橋を中心とした広瀬川河川空間および広瀬川に面する青葉山公園・仙臺緑彩館、西公園、住宅・店舗や、その庭先などのまち空間を一体的なせんだいセントラルパーク重点エリアと位置づけ、都市生活や賑わい活動の小さな拠点(パークハウス)を設置し、沈下橋や潜り堰、または飛び石による歩行者ネットワークを創出するなどして、広瀬川大橋周辺を市民や観光客が訪れることができる名所とする。	
仙台市遊び場展開事業	こどもの遊びの環境を充実させることを目的に、広瀬川河川敷および西公園多目的広場などに、こどもの遊び場を一時的に仮設し、こども達が自発的に遊ぶ機会を提供するとともに、プレーパーク活動の啓発や担い手の発掘、遊びを引き出すスタッフの育成を行う。	仙台市こども若者局子育て応援都市推進課
屋内遊び場基本計画の策定	こどもの遊びの環境を充実させるため、西公園南側エリアに本市の魅力の一つである豊かな自然を活かした遊びや、屋外での遊びとの連続性をもたせた施設の整備に向けた基本計画を策定する。	
青葉山公園整備事業	藩政時代からの歴史的・文化的資源や自然景観を活かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備する。	仙台市建設局公園整備課
西公園再整備事業	樹林や広瀬川の自然を活かしつつ、多様な市民活動が展開される「やすらぎとにぎわいの空間づくり」をテーマに、市街地の「みどりの回廊」の拠点にふさわしい公園として再整備する。	
広瀬川(大橋周辺)水辺利活用の検討	青葉山エリアの新たな魅力を創出し、都心部との回遊性向上を図るため、市民などが気軽に楽しめる広瀬川(大橋周辺)の水辺利活用について検討を行う。	仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向⑧ 市民への情報発信

取組事業名	内容	主体
広瀬川創生プランにおける重点事業の活動内容の発信	重点事業に認定した取組みがモデルケースとなることを目指し、より具体的な活動内容を発信する。	広瀬川創生プラン策定推進協議会 仙台市建設局百年の杜推進課
広瀬川魅力創生サポーターの認定状況および活動内容の発信	広瀬川グリーンサポーターやゴールドサポーターの認定状況および活動内容を発信する。	
「水の神さま」プロジェクト	地域に祀られている龍神碑・水神碑・不動尊など水にまつわる神さまを題材に、地元住民へのヒアリングを通して、地域住民の水に対する思いや水辺の変化などを踏査・発信する。震災後は沿岸地域を中心に実施。	(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
広瀬川何でも相談室	広瀬川に関する質問、意見に対しワンストップで回答。また、相談に基づく行政への提言活動など。	(特非)広瀬川の清流を守る会
関山街道の四季フォトコンテスト	宮城・山形両県をつなぐ関山街道(国道48号)沿線の四季折々の魅力を写したお気に入りの写真を募集する。	関山街道フォーラム協議会
白沢カルデラ外輪山を歩こう会(白沢カルデラ実働部隊)	白沢カルデラ・広瀬川の地質、地形などの自然資産を活かして、地域における大地の成り立ちや歴史を学び、将来的には広瀬川ジオパークとしての登録を目指す。	白沢カルデラプロジェクト実行委員会
歩こう動こう脱メタボプロジェクト～アールクワーク仙台～	歩くことを促すウォーキングイベントの開催と、特設ウェブサイトで身体を動かすきっかけを増やせるような情報や、健康づくり全般に関する情報発信を行う。	仙台市健康福祉局健康政策課
広瀬川の魚・環境の展示【再掲】	仙台市科学館の常設展示コーナーで、広瀬川の魚全種のアクリル封入標本や水槽による実物展示、広瀬川の源流から河口までの流域模型と水が流れる体感展示を行う。4階常設展示室南側の「宮城・仙台の自然」エリアでは、広瀬川全景の床地図を配置。床地図に合わせて、山地、丘陵地、沿岸部の自然を再現したジオラマや、広瀬川周辺の生き物の標本などを展示し、また、広瀬川を下流から上流へ向かって空を飛んで行くような疑似体験ができる「スカイアドベンチャー」も設置している。	仙台市教育局科学館
広瀬川自然展示コーナー【再掲】	片平市民センター内の広瀬川自然展示コーナーにおいて、四谷用水やそれを支える仙台の地質・地形などに関して、プロジェクションマッピングを活用した展示を実施している。	
広瀬川ホームページ	広瀬川に関する自然・歴史・文化・市民活動・インタビュー・研究レポートなど、多様な情報発信と意見交換の場を提供する。	仙台市建設局百年の杜推進課
仙台市公式 #広瀬川 Instagramに掲載する情報収集と更新	プランに関わる各活動団体や広瀬川に関する行政の取組みをInstagramを通じて情報発信する。	#広瀬川 インスタクラブ 仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向⑨ 広瀬川に関する催しの実施

取組事業名	内容	主体
定例探鳥会の実施	大橋からの野鳥観察を含む青葉山定例探鳥会を、原則として毎月第1日曜日に、青葉山平日探鳥会を5月と12月に、千代大橋付近の野鳥を観察する広瀬川下流探鳥会を3月に開催する(予定)。	(公財)日本野鳥の会 宮城県支部
カヌーで河川清掃クリーンアップ広瀬川【再掲】	毎年8月、お盆翌週の日曜日に開催し、広瀬川の岸辺に漂着したゴミを川の中から清掃する。	仙台市カヌー協会
カヌーリバーレスキュー・ワークショップ	川遊びをされる多くの皆さんを対象に、リバーピープル必須のレスキュー方法をワークショップ形式で開催する。	
広瀬川カヌーツーリング・そのためのレッスン	5～11月に広瀬川でカヌーツーリングを楽しむための4回シリーズのカヌーレッスンを開催する。	
カヌー体験会	河川清掃後などのイベントに合わせて「カヌー体験会」を1シーズンに4～5回開催する。	
水辺で乾杯	全国的な水辺でのイベント(ミズベリング)であり、7月7日午後7時7分に水辺に集まり乾杯する。	(特非)都市デザインワークス
もりの庭園 雨庭づくり	仙台市第一号の雨庭「もりの庭園」を市民の力で、もっと魅力的な場所にする。	(特非)都市デザインワークス 青葉山エリアマネジメント 青葉山・八木山フットパスの会
広瀬川灯ろう流し・光と水のコンサートの日	夏の風物詩として、先祖や大切な人への思いを馳せる灯ろう流しや打ち上げ花火、地域団体のステージ発表などを実施する。	広瀬川灯ろう流し実行委員会
四ツ谷用水再発見事業【再掲】	広瀬川の四ツ谷堰から取水し、かつての城下町を潤した四ツ谷用水の周知と継承を図るため、四ツ谷用水跡をたどる歩く会、四ツ谷用水フォーラムなどの啓発イベント等を実施する。	仙台市環境局環境共生課
広瀬川自然体験学習	川の生き物探しやカヌー体験、川での安全な歩き方などを学びながら自然豊かな広瀬川を体感してもらう。	仙台市建設局百年の杜推進課
広瀬川スマホ写真教室	広瀬川沿いの見どころを徒歩で巡りながら、スマートフォンによる写真撮影の仕方や編集などの基本について学ぶことで、広瀬川への意識の醸成を目指す。	
広瀬川界限ぶらり散歩	市民センターで養成した広瀬川ボランティアガイド「広瀬川をゆっくり歩く会」の案内で、広瀬川を中心に地域をめぐり、魅力を伝える。	片平市民センター 仙台市建設局百年の杜推進課

■施策の方向⑩ 市民参画型事業の推進

取組事業名	内容	主体
広瀬川創生プランにおける重点事業の推進	市民やNPOなどの各主体が協働し、多様な人々が広く参加できる取組みなどを重点事業に認定し、その活動を推進する。	広瀬川創生プラン策定推進協議会 仙台市建設局百年の杜推進課
広瀬川1万人プロジェクト 河川・海岸一斉清掃【再掲】	仙台市人口1%の1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して広瀬川流域を含む河川・海岸一斉清掃や広瀬川学校などの啓発活動を実施する。	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会
水辺で乾杯【再掲】	全国的な水辺でのイベント(ミズベリング)であり、7月7日午後7時7分に水辺に集まり乾杯する。	(特非)都市デザインワークス

■施策の方向⑪ 市民活動や団体の支援

取組事業名	内容	主体
市民協働事業の推進	広瀬川に関わる市民参加型事業の企画を行い、市民協働の取組みを推進する。	仙台市建設局百年の杜推進課
市民センターとの連携	各市民センターで行われる広瀬川に関わる事業を広瀬川ホームページなどに掲載するほか、講師の紹介・派遣を行うなど市民センターとの連携を推進する。	

第 3 章

推進体制

- 1 推進体制
- 2 各主体の役割
- 3 活動の支援



鹿落坂から広瀬川を望む

1 推進体制

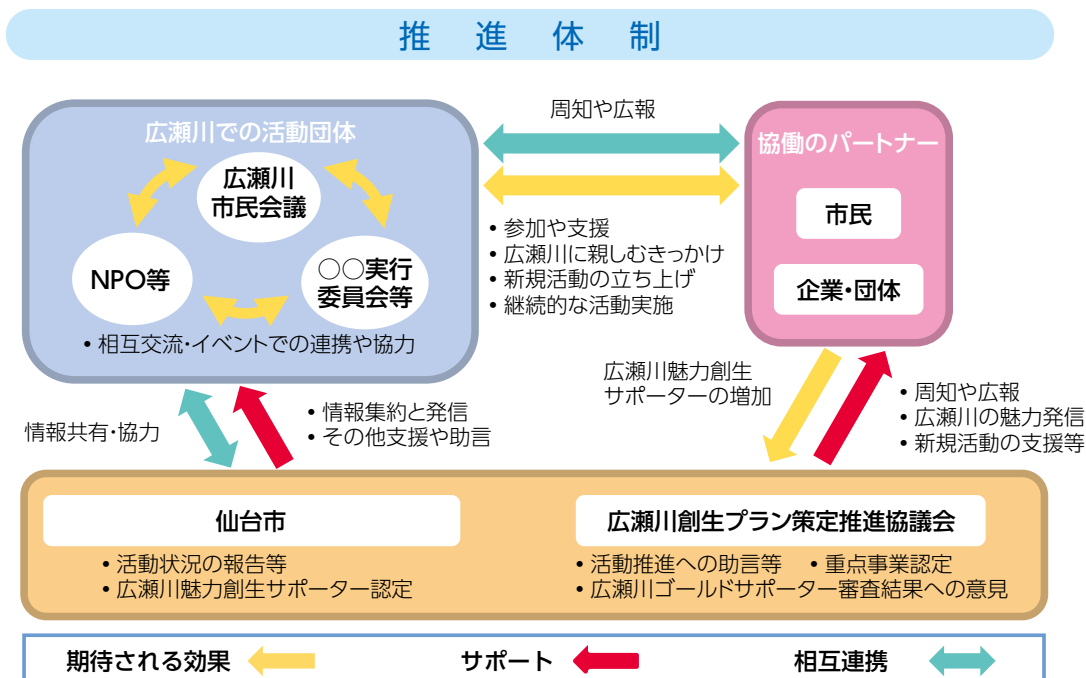
本プランの推進にあたっては、広瀬川での活動団体、協議会、仙台市が協働で取り組んでいく必要があります。

広瀬川での活動団体は、それぞれの立場で可能な取組みを引き続き進めます。また、これまでは広瀬川に関心を持つ市民や活動団体が気軽に参加できるネットワーク組織「広瀬川市民会議※」が中心となって、活動団体同士の連携を促進してきましたが、今後はさらに、団体相互の交流促進と、団体同士が連携・協力して共に活動を推進するとともに、団体の多様な個性や価値観の掛け合わせの中から新たな発想を生み出すため、SNSなどの活用や交流会の開催等、ネットワークづくりを検討します。

協議会は推進体制に基づく取組みに対して必要な助言や検討を行います。

仙台市は活動団体の取組みやプランを周知・広報し、広瀬川の魅力を発信することで、市民、企業・団体が協働のパートナーとして新たな活動へ参加することを促すとともに、活動の支援を行います。

※ 広瀬川に関心を持つ市民や市民団体、NPO、企業などが気軽に参加できるネットワーク組織として、平成16年4月に設立された団体です。



2 各主体の役割

(1) 広瀬川での活動団体

活動団体は、プランの基本理念及び基本目標に沿って、それぞれの立場で可能な取組事業を実施します。また、実施にあたっては、団体相互の交流促進と団体同士の連携・協力も検討するほか、取組事業の周知、広報を行います。その他、必要に応じて仙台市や協議会の支援を受け、活動の活性化を図ります。

(2) 広瀬川創生プラン策定推進協議会

平成16年（2004年）に策定した「広瀬川創生プラン策定推進協議会設置要綱」に基づく組織で、広瀬川に関する知識・経験を有する学識経験者や河川管理者並びに市民活動団体等により構成されます。

プランの策定や見直しを行うほか、取組事業を推進していくための助言や重点事業の認定などを行います。

(3) 仙台市

取組事業の情報を広く提供していきます。その際、活動団体の意向に応じて、団体相互の交流促進と団体同士が連携・協力して共に活動を推進していくためのネットワークづくりを支援します。また、対話・交流の場を設けることで、新たな発想による取組事業が増えていくよう、サポート体制の充実に努めるほか、建設局百年の杜推進課が各活動団体の相談窓口としての役割を担います。

3 活動の支援

(1) 重点事業認定制度

プランに基づく取組事業のうち、広瀬川の魅力を発信する上で効果的、かつ、下記の考え方に合致する事業は、協議会において重点事業として認定します。

重点事業は仙台市も連携し、取組事業のモデルとなることを目指すとともに、重点事業のうち一部の取組事業については仙台市の助成金の対象とします。詳細は協議会で検討します。

重点事業認定の基本的な考え方

複数の主体が連携・協力できる取組みであること

市民・NPO・行政・企業などの主体が、お互いを尊重しつつ力を合わせて協働できるもの。

市民が広く参加できる取組みであること

世代・地域・立場などを超えて、市民が気軽にかつ自発的に参加することができるもの。

ソフト中心の取組みであること

川づくりの中でも、広瀬川の自然環境等を活かしたソフト中心のもの。

(2) 広瀬川魅力創生サポーター認定制度



広瀬川の自然環境の保全や賑わいの創出に貢献している活動団体を「広瀬川魅力創生サポーター」として認定する制度を平成31年（2019年）に創設しました。活動団体の功績に謝意を表するとともに、さらなる活動意欲を高めることを目的としています。取組内容に応じて「広瀬川グリーンサポーター」又は「広瀬川ゴールドサポーター」として認定し、活動内容は仙台市のホームページに掲載します。さらに、「広瀬川ゴールドサポーター」には認定証を交付します。こうした制度により、活動団体の取組事業を支援していくとともに、広く周知を図ります。

(3) その他支援等



取組事業への仙台市の後援、「広瀬川ホームページ」・「広瀬川Instagram」へのイベント情報の掲載、「アイラブ広瀬川」ロゴマークの提供を行います。

第 4 章

推進状況の評価

- 1 1年ごとの取組状況の把握
- 2 計画期間ごとの推進状況の評価



- ① ⑥ 広瀬川自然体験学習（大橋付近） ② 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートのタベ（8月／宮沢橋付近）
 ③ 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートのタベの花火（8月／宮沢橋付近） ④ 牛越橋付近でジョギング
 ⑤ 親子で散策（米ヶ袋付近） ⑦ 牛越橋周辺での芋煮会（9月～10月ごろ） ⑧ SUP（スタンドアップパドルボード、大橋付近）

1 1年ごとの取組状況の把握

プランの取組事業について、年1回程度、仙台市から活動団体などに実施状況・実施予定を確認します。確認した実施状況などは仙台市から協議会へ報告するとともに、実施状況を分析し、課題を整理のうえ改善に向けた対応方針を協議会と仙台市で検討します。また、確認した実施状況は他の活動団体などにも情報提供するほか、実施状況の分析結果を今後の活動の方向性の決定に役立ててもらえるよう必要に応じて活動団体等と情報共有します。あわせて翌年度に実施予定の取組事業を広瀬川ホームページ等で公表します。

取 組 状 況 の 把 握

活動団体等への取組事業の実施状況・実施予定の確認

- ・取組事業を実施する活動団体等へ仙台市から年1回程度確認する

協議会への実施状況・実施予定の報告と課題の整理

- ・確認した取組事業の実施状況・実施予定を仙台市から協議会へ報告する
- ・確認した取組事業の実施状況を分析して、課題を整理し、改善に向けた対応方針を協議会と仙台市で検討する

活動団体等へのフィードバック

- ・確認した取組事業の実施状況を他の活動団体等にも情報提供する
- ・確認した取組事業の実施状況の分析結果を今後の活動の方向性の決定に役立ててもらえるように、必要に応じて活動団体等と情報共有する

取組事業の公表

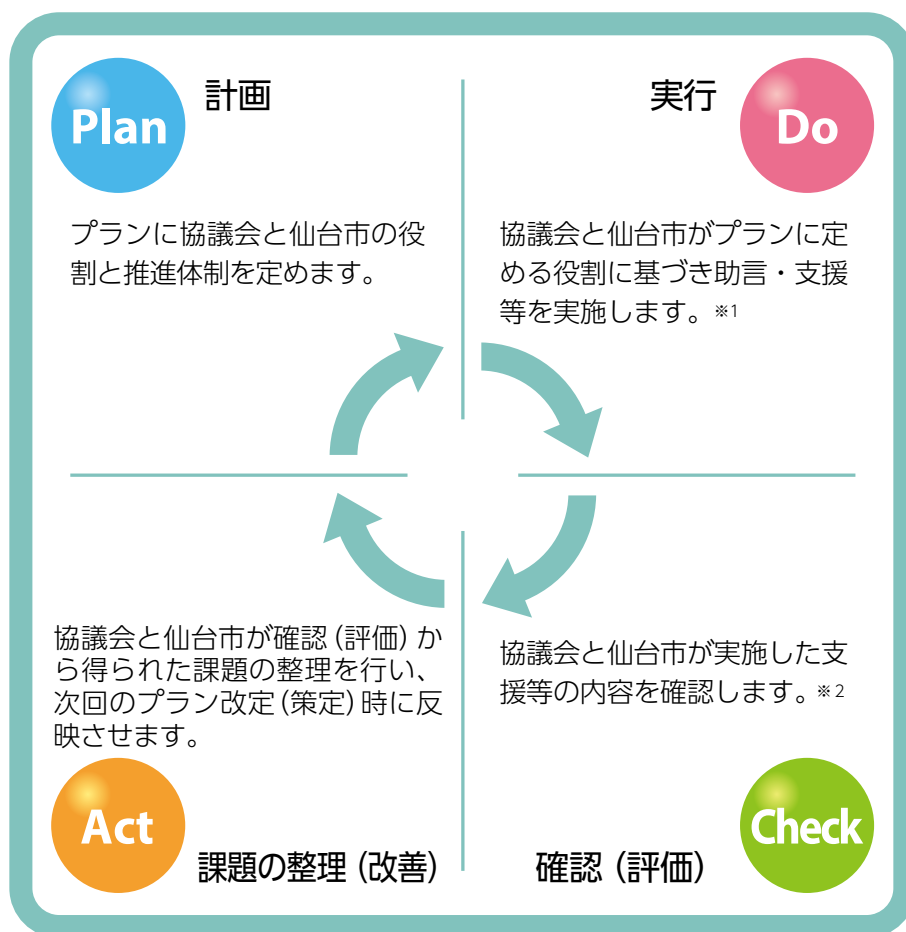
- ・翌年度に実施予定の取組事業を取りまとめ広瀬川ホームページ等で公表する

2 計画期間ごとの推進状況の評価

計画期間ごとに実施するPlan（計画）→ Do（実行）→ Check（確認（評価））→ Act（課題の整理（改善））のサイクルにより、推進状況の評価を行います。

プランに協議会と仙台市の推進体制、役割を定め、その役割に基づき支援などを行います。そして、その支援などの内容を協議会と仙台市が確認（評価）し、そこから得られた課題の整理を行い、次回のプラン策定（改定）時に反映させます。

推 進 状 況 の 評 価



※¹ 「Do（実行）」において協議会と仙台市が実施する助言・支援等：

- ・推進体制に基づき広瀬川での活動団体に対しては情報集約と発信、その他支援や助言を行います。
- ・協働のパートナーである市民、企業・団体に対しては周知や広報、広瀬川の魅力発信、新規活動の支援等を行います。

※² 「Check（確認（評価））」において協議会と仙台市が確認する内容：

- ・広瀬川での活動団体の取組事業が継続して実施されているか、市民が広瀬川に親しむきっかけが増えているかについて確認し、協議会と仙台市の役割に基づく支援等の実施状況を確認します。なお、負担金支出を伴う支援を行った事業については別途評価を行います。

参考資料

- 1 広瀬川創生プラン改定の検討過程
- 2 広瀬川に対する市民意識調査（概要）
- 3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査（概要）
- 4 広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿

参考資料1 広瀬川創生プラン改定の検討過程

1 会議等の開催状況

令和6年度から現行プラン(2015-2024)の改定作業に着手し、広瀬川創生プラン策定推進協議会(以下「協議会」という。)および広瀬川創生プラン改定検討ワーキンググループ(以下「WG」という。)で以下のとおり検討を行った。

(協議会開催状況及び検討内容)

開催日		主な検討内容
第46回協議会	令和6年5月22日(水)	・プラン改定検討のためのWGの設置 ・WGメンバー5名の選出
第47回協議会	令和6年11月28日(木)	・広瀬川創生プラン2025-2034骨子(案)について
第48回協議会	令和7年3月27日(木)	・広瀬川創生プラン2025-2034(中間案)について
第49回協議会	令和7年7月10日(木)	・パブリックコメントの結果について ・広瀬川創生プラン2025-2034(最終稿)について

(WG開催状況及び検討内容)

開催日		主な検討内容
第1回WG	令和6年7月4日(木)	・現行プランの振り返り ・次期プランの方向性(基本理念・基本目標) ・改定に当たっての検討内容(重点事業認定制度、推進体制) ・WGの今後の進め方
第2回WG	令和6年9月5日(木)	・基本理念・基本目標の確認について ・推進体制について ・重点事業認定の基本的な考え方について
第3回WG	令和6年10月31日(木)	・施策の方向について ・広瀬川創生プラン2025-2034骨子(案)について
第4回WG	令和7年1月29日(水)	・プランの推進状況の評価について ・広瀬川創生プラン2025-2034(中間案)について

2 プラン改定の主なポイント(検討結果)

(1) 現行プランの基本理念・基本目標の承継

プランは「広瀬川創生プラン素案づくり実行委員会」が主体となって作成(平成15年(2003年))した「広瀬川創生プラン素案 河水千年の夢ー広瀬川・悠久の流れとまちづくりー」を基に策定したものであり、今回の改定は同素案の理念上の計画期間(50年)の中での策定であることから、3つの基本理念及び理念に基づく5つの基本目標についての変更は行わず、今後ともそれらに基づく施策を推進していくこととした。

(2) 活動団体同士の相互交流や連携、協力の更なる推進を目指した体制の構築

これまで活動団体同士の連携を促進してきた「広瀬川市民会議※」の再建に向けた取組みを継続し、広瀬川市民会議を含む広瀬川での活動団体の相互交流促進や、団体同士が連携・協力して共に活動していくためのネットワークづくりを目指す推進体制に変更することとした。

※ 広瀬川に関心を持つ市民や市民団体、NPO、企業などが気軽に参加できるネットワーク組織として、平成16年4月に設立された団体です。

(3) 重点事業認定制度の拡充による小規模イベントの支援

少子高齢化や生活様式の多様化などの影響を受け、人材や人手不足等の理由から、活動団体が行うイベントの小規模化が進んでいる。このようなイベントを支援するため、大型イベントの視点に立った認定の基本的な考え方の一つである「波及効果の高さ」については、緩和および他の考え方と統合するほか、全体的にわかりやすい表現に改めた。

(4) 現行プランの施策の方向を継承(一部、表現や実施内容の変更)

引き続き市民が広瀬川に親しみ、その魅力を感じる機会を創出するため、現行プランにおける11の施策の方向は継続しつつ、更なるプランの推進のため、「防災」や「学び」、「人材育成」などの視点を取り入れることとした。

(5) 進行管理の見直しおよびプランの推進における評価の対象者等の明瞭化

計画期間ごとのPDCAサイクルによる評価の対象者(協議会及び仙台市)とその内容(支援等の実施状況)をより明瞭化した。また、1年ごとの取組状況の把握では、活動団体などの取組みを支援するため、フィードバックに関する記載を追加した。

1 調査の目的

広瀬川創生プラン改定に当たり、平成13年度、平成26年度に実施した市民意識調査結果との対比を行い、市民意識の変化の有無を調査することを目的に実施した。

2 調査対象及び回収数

(1) 調査対象: 仙台市内在住の20歳以上の方

(2) 回収状況: 発送数1,500サンプル、回収数447サンプル、回収率29.8%

※ 標本数の分配方法

・仙台市内の64中学校区を単位層とし、各層毎の母集団(令和6年5月1日現在の住民基本台帳に基づく人口)の大きさに基づき、まず1,018サンプルを比例配分した。

・次に、広瀬川流域の15中学校区については、各標本数が50となるように482サンプルを補充した。

3 調査方法 無記名式の質問用紙、郵送による配布・回収

4 調査実施期間 令和6年8月

5 報告書の見方

(1) 報告書中のNとは、その設問項目の回答者数または回答件数である。

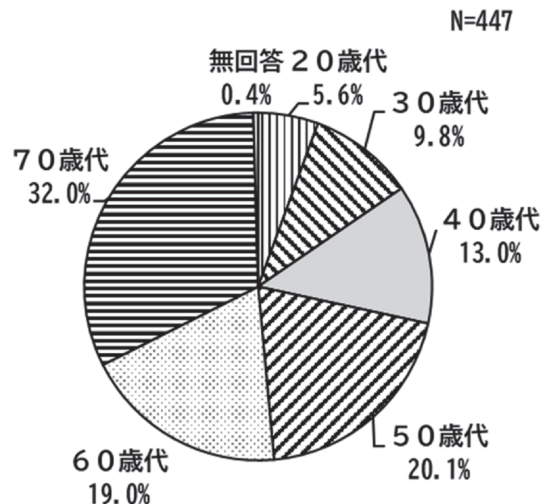
(2) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記してある。したがって、必ずしも(単数回答の)合計が100.0%にならない場合がある。

(3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる質問(複数回答)では、回答件数の合計は回答者数(100.0%)を超える場合がある。

■回答者の主なプロフィール

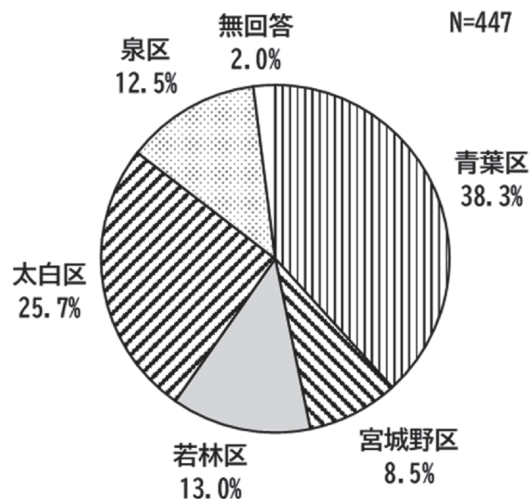
【年齢】

・20歳代	25人
・30歳代	44人
・40歳代	58人
・50歳代	90人
・60歳代	85人
・70歳以上	143人
・無回答	2人



【お住まいの区】

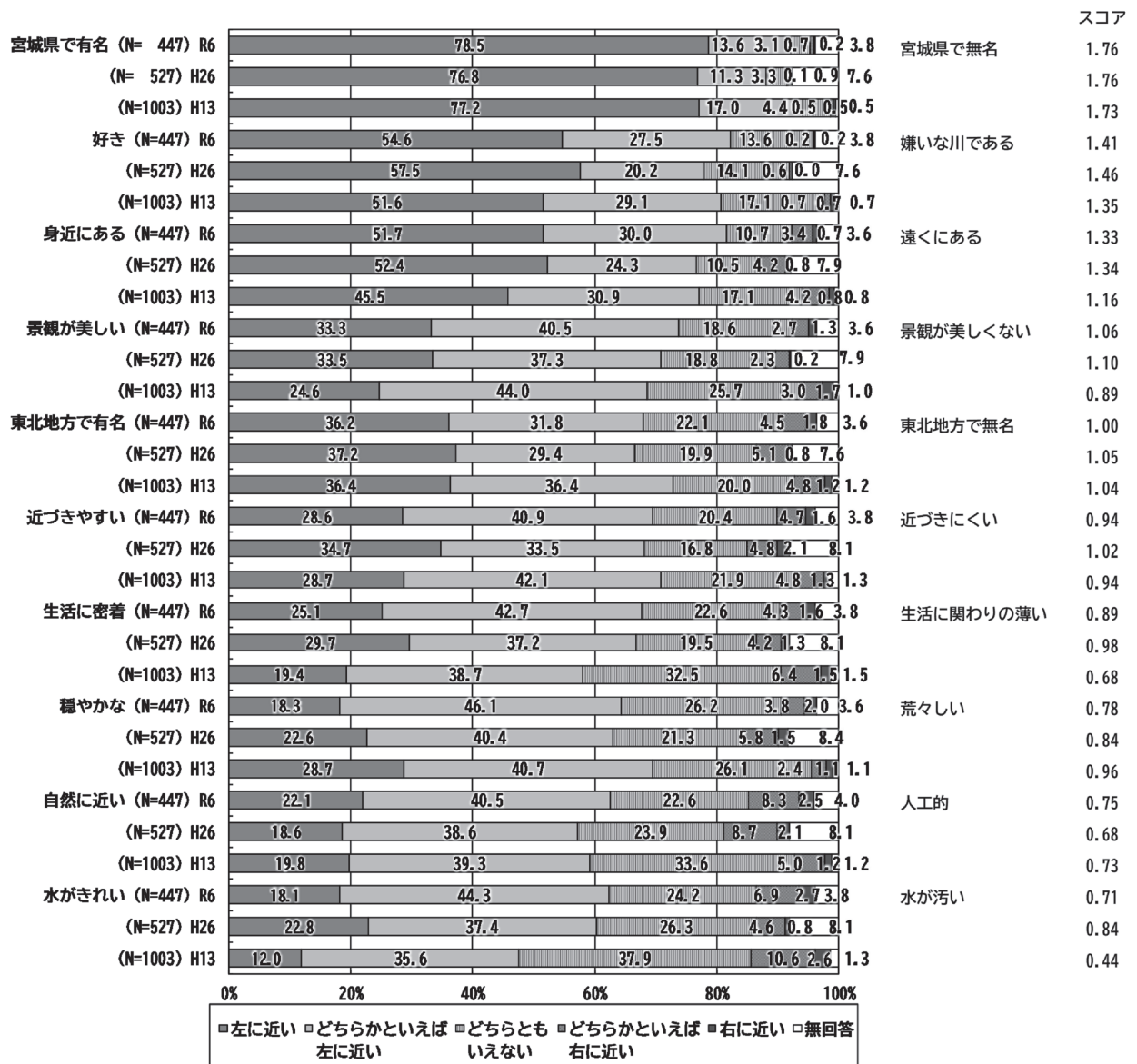
・青葉区	171人
・宮城野区	38人
・若林区	58人
・太白区	115人
・泉区	56人
・無回答	9人

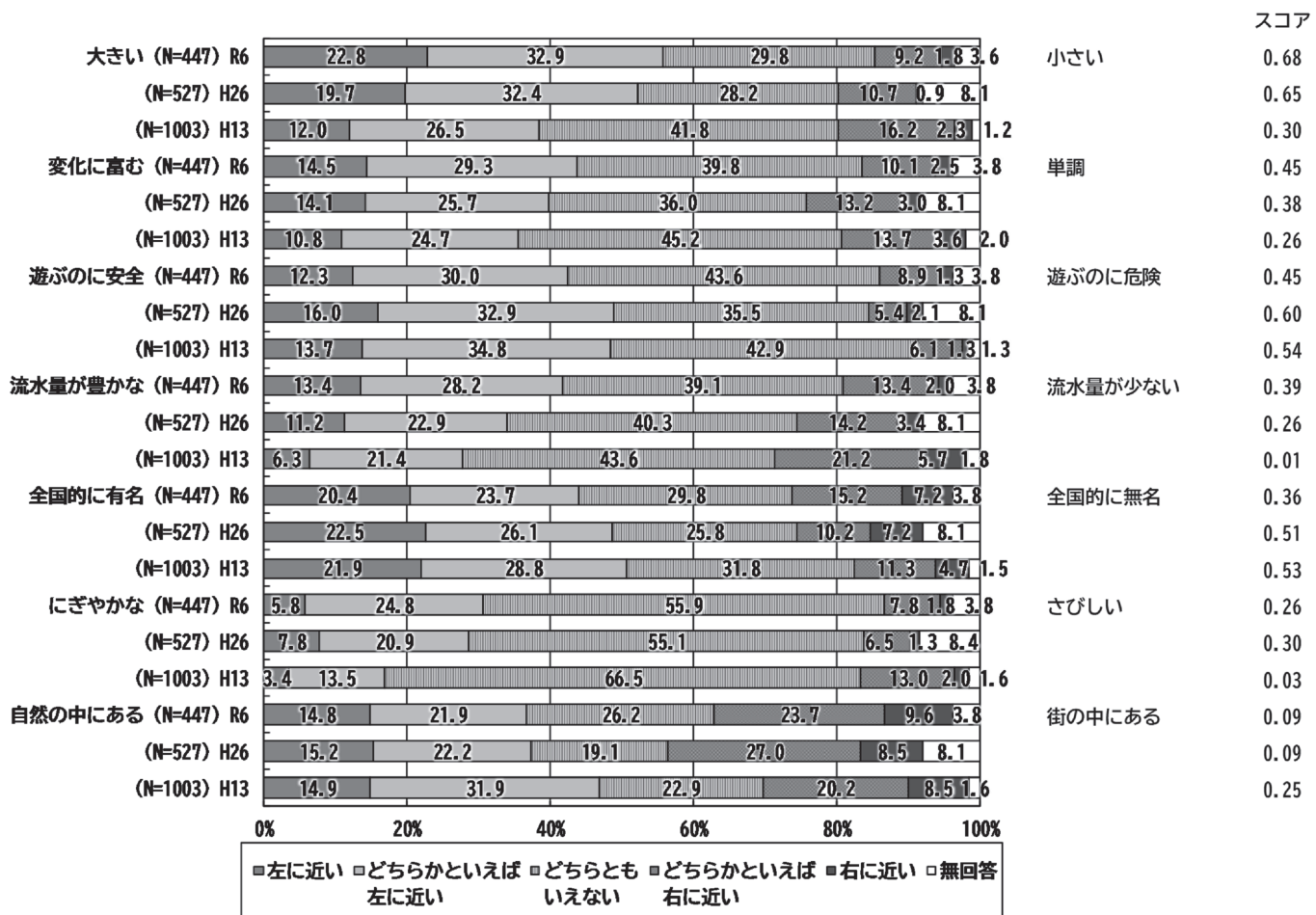


■集計結果

(1)「広瀬川」に対するイメージ

広瀬川に対する市民の持つイメージを把握するために、「好きな川である」と「嫌いな川である」のように対になったものから、広瀬川のイメージがどちらに強いかを質問した。回答者全体では「宮城県で有名」「好き」「身近にある」などのイメージが強い。

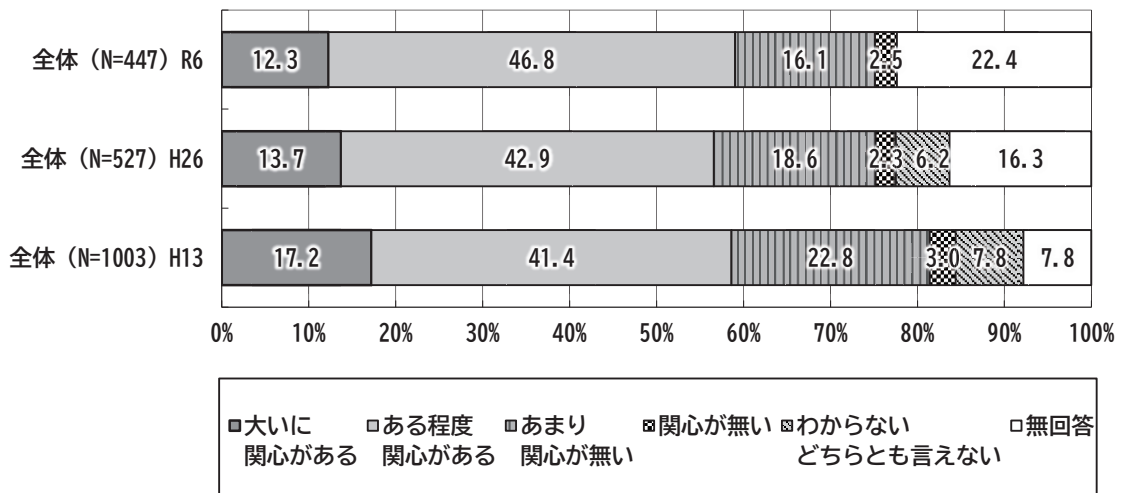




※グラフ中のスコアとは、各項目において、「左に近い」を2点、「どちらかといえば左に近い」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかといえば右に近い」を-1点、「右に近い」を-2点と換算し、その平均点を示している。平均を算出する際の分母には、無回答は含まない。項目はスコアの降順に並び替えている。

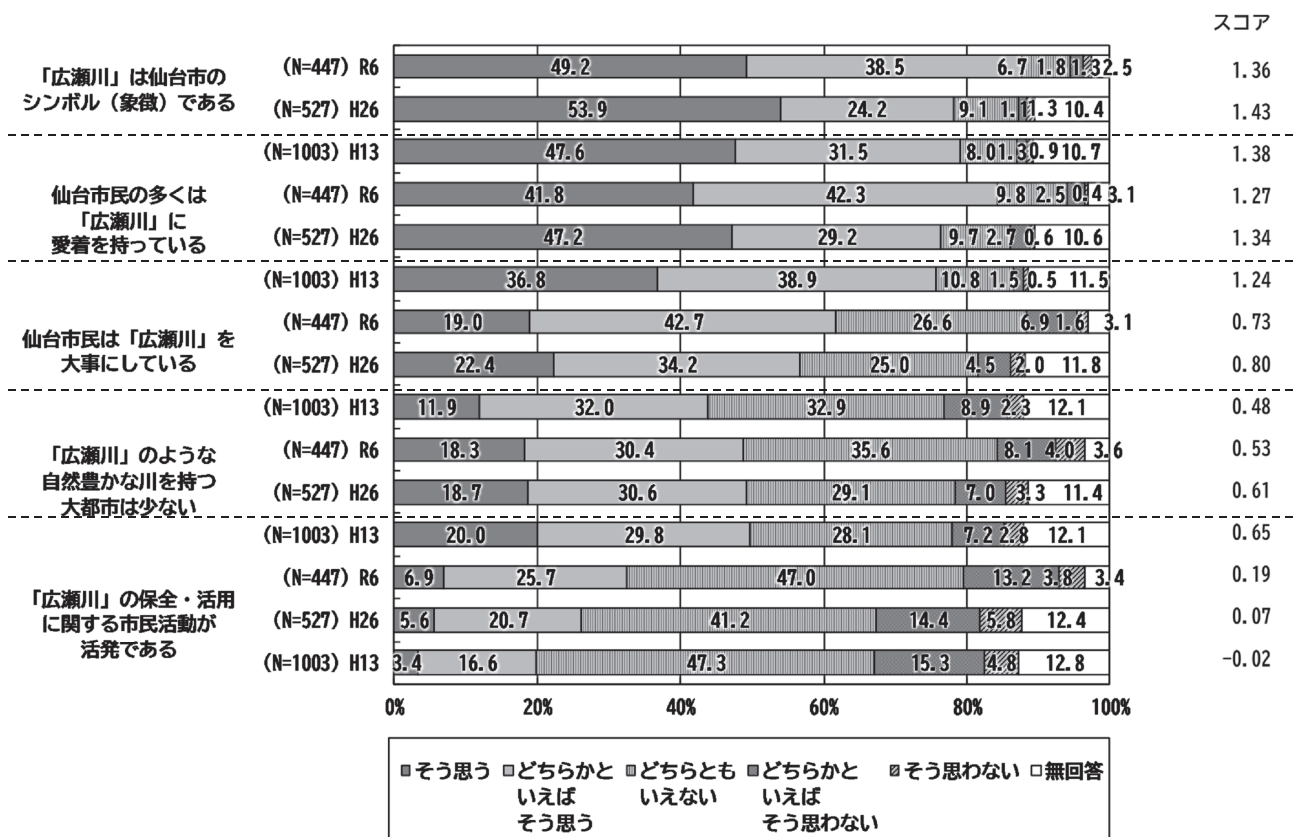
(2)「広瀬川」への関心度

「広瀬川」への程度関心をもっているかを質問した。回答者全体では、「ある程度関心がある」が46.8%、「大いに関心がある」が12.3%であり、全体の半数以上の人が広瀬川に関心をもっていることがわかる。



(3)「広瀬川」についての基本認識

広瀬川について5つの考え方(基本認識)を提示した上で、その考え方に対してどう思うかをたずねた。市民の多くが「広瀬川は仙台市のシンボル(象徴)である」「仙台市民の多くは「広瀬川」に愛着を持っている」という考えを持っていることがわかる。

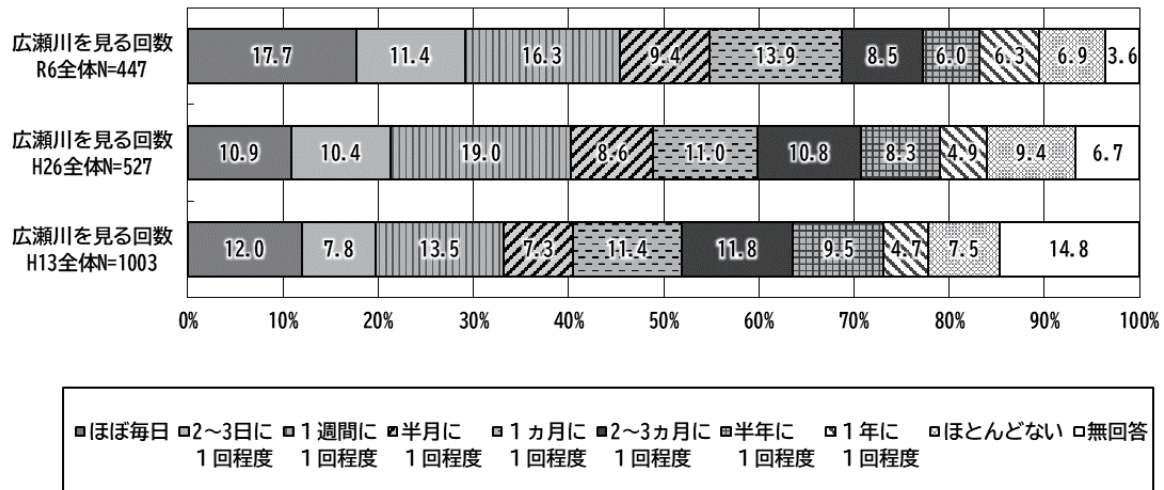


※グラフ中のスコアとは、各項目において、「そう思う」を2点、「どちらかといえばそう思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「どちらかといえばそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点と換算し、その平均点を示している。項目はスコアの降順に並び替えている。

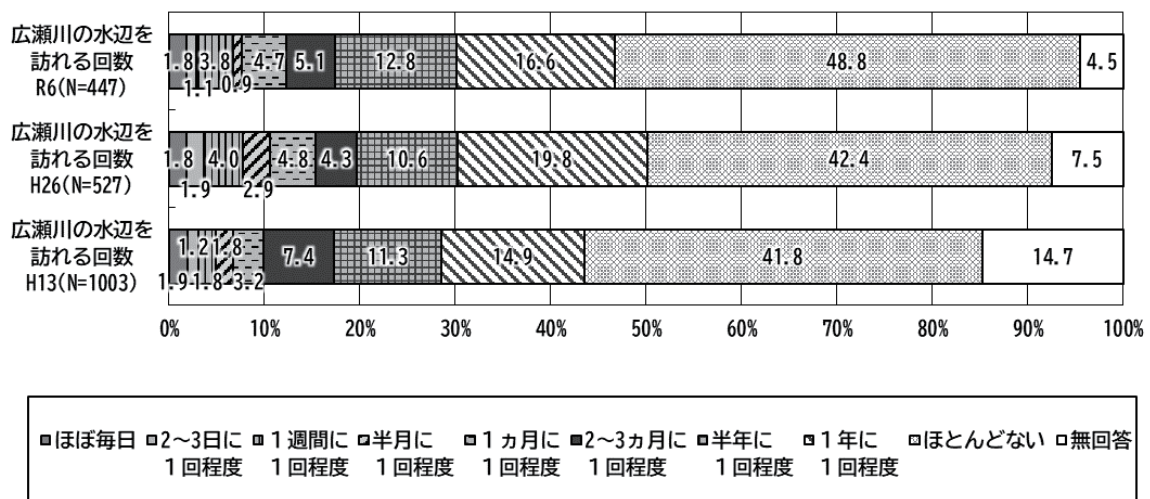
(4)「広瀬川」へのアクセス頻度

市民が広瀬川へ実際にどの程度アクセスしているかを把握するために、「広瀬川を見る回数」「広瀬川の水辺を訪れる回数」の2つの質問をした。広瀬川を見る回数についての回答は、「ほぼ毎日」から「ほとんどない」まで幅広く分布している。広瀬川の水辺を訪れる回数については、「ほとんどない」と回答している人が48.8%と最も多く、次いで「1年に1回程度」が16.6%となっている。

＜広瀬川を見る回数＞

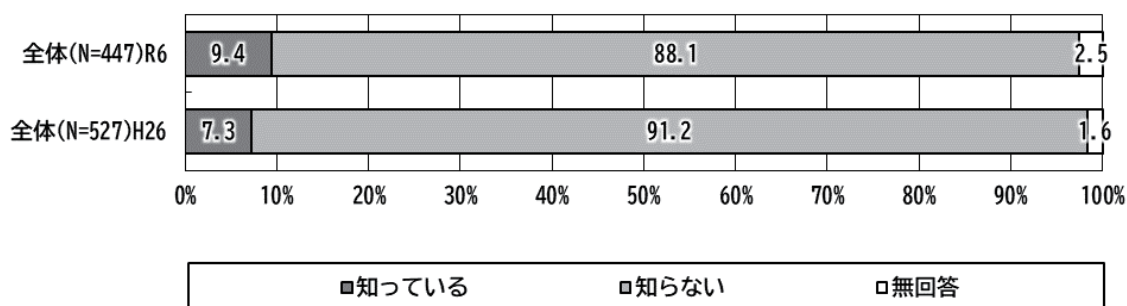


＜広瀬川の水辺を訪れる回数＞



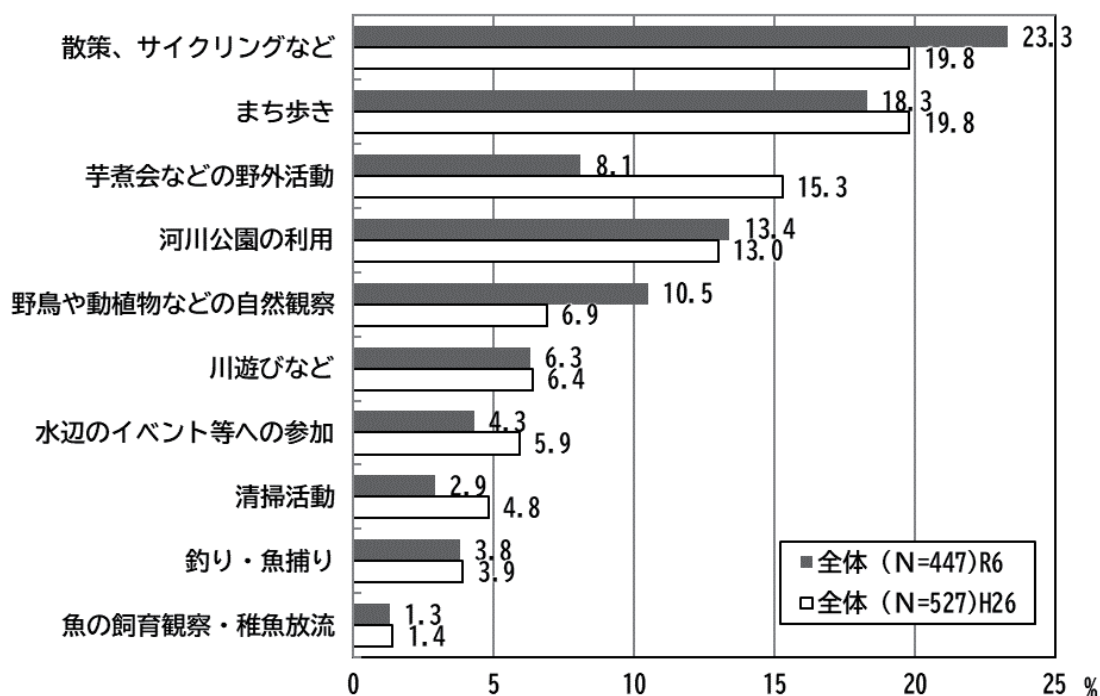
(5)「広瀬川創生プラン」の認知状況

市民に「広瀬川創生プラン」の認知状況を質問したところ、「知っている」が9.4%であった。



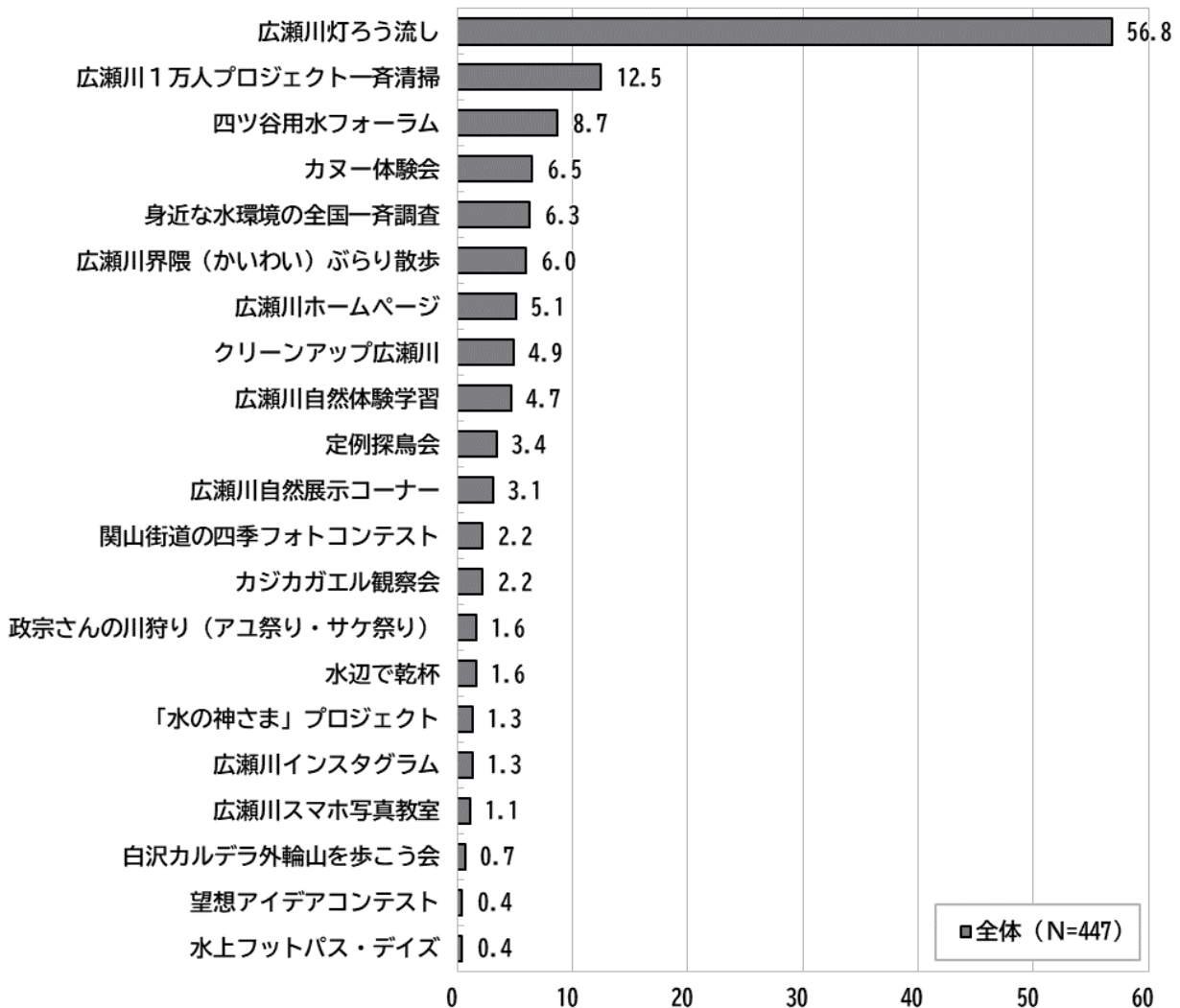
(6) 最近の「広瀬川」との関わりについて

市民がここ2～3年間で広瀬川に関連してどのようなことをしたかについて把握するための質問では、「散策、サイクリングなど」が23.3%、「まち歩き」が18.3%が続いている。



(7)「広瀬川」のイベントや取り組みの認知状況

広瀬川で行われている21の主なイベントや取り組みをあげて、認知状況を市民にたずねた。「広瀬川灯ろう流し」が最も多く、56.8%と半数の人が認知している。次いで「広瀬川1万人プロジェクトー斉清掃」が12.5%で続いている。



参考資料3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査(概要)

- 1 調査の目的 : 広瀬川創生プランの改定にあたり、広瀬川で活動する団体の取組事業を実施する際の課題などについて把握するもの
- 2 調査対象 : 広瀬川で活動する団体(8団体)
- 3 調査方法 : 電子メールによる質問用紙の配布・回収
- 4 調査実施期間: 令和6年8月

・取組事業を実施する際の課題

事業実施の課題	活動団体からの主な意見
人手不足	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化等により、事務局を担うスタッフのなり手が少なく取組みの実施が困難な場合がある ■若いスタッフがいないので困っている
周知・広報不足	<ul style="list-style-type: none"> ■事務担当不足により周知、広報不足
他団体との連携不足	<ul style="list-style-type: none"> ■取組みに対する温度差があり、連携が難しい ■他団体と連携したくても、そのための時間や労力を割くことが難しい

・事業実施のために必要性が高いと感じる協力・支援

必要性の高い協力・支援	活動団体からの主な意見
後援等の名義使用	<ul style="list-style-type: none"> ■川沿いの官地の使用にあたり、市の後援事業となれば管理者から理解が得られやすい
場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ■駐車場の確保
運営の人手確保	<ul style="list-style-type: none"> ■行政や他の活動団体との連携・協力による相互の人手確保
事務手続きの補助	<ul style="list-style-type: none"> ■スキルを持った、行政担当者や行政経験者等による行政手続きの補助

・重点事業認定制度

○重点事業認定制度の認知度について

知っている	知らない	無回答
2団体	5団体	1団体

○重点事業認定制度を利用した助成金の活用※について

活用したいと思う	活用したいと思わない	無回答
1団体	6団体	1団体

○「活用したいと思わない」と回答した主な理由

- 助成金をもらえるにしても、活動成果を求められるなら、そのために団体メンバーの大きな負担(人手他)になるようなら、市民活動として楽しく、持続可能な活動として取り組みなくなるため。
- 実行委員会にすることで合意形成に時間を要し、それにかかる事務局人件費がコストとして大きいため。
- 実際の運営に関しても、大部分は事務局が担うケースがほとんどであり、実働的な実行委員会にはならないため。

※助成金を受け取るためには、実行委員会などを立ち上げ、活動内容についての協議や活動終了後に協議会への活動報告が必要となる。

参考資料4

広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿

第10期(令和6年4月1日～令和8年3月31日)

役職	氏名	役職又は団体名
	一井 利光	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 流域治水課長
	岩崎 雄一郎	東北電力株式会社宮城支店 広報担当部長
	大場 秀行	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長
◎ 会長代理	小田 隆史	東京大学大学院総合文化研究科 准教授 日本河川教育学会 理事
◎ 会長	小祝 慶紀	東北工業大学ライフデザイン学部 学部長
	今野 義則	仙台市片平市民センター 館長 (令和7年4月1日就任)
	西城 あや	一般社団法人個育てコーチング協会 代表理事
	佐々木 方明	仙台市片平市民センター・片平児童館 館長 (令和7年3月31日まで)
	笹村 欣司	ニッカウエスキー株式会社仙台工場 理事工場長
◎	佐藤 奈緒子	なおコンサルティング 代表
	多田 千佳	東北大学大学院農学研究科 准教授
	田名部 一郎	宮城県仙台土木事務所 河川部河川砂防第一班 技術主幹(班長)
◎	豊嶋 純一	特定非営利活動法人都市デザインワークス せんだいセントラルパーク縁長
◎	中嶋 紀世生	宮城大学研究推進・地域未来共創センター コーディネーター
	谷田貝 泰子	特定非営利活動法人水・環境ネット東北 事務局長
	山本 琴枝	仙台商工会議所女性会 常任委員

◎:広瀬川創生プラン改定検討ワーキンググループメンバー

(敬称略・五十音順)

広瀬川創生プラン

2025～2034

市民協働による川づくり,まちづくり行動計画
～ 悠久の流れ・広瀬川の新たな魅力の発見と創出をめざして ～

令和7年7月

編集・発行 仙台市 建設局 百年の杜推進部 百年の杜推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7番1号

TEL:022-214-8327 FAX:022-216-0637

広瀬川ホームページ/<https://www.hirosegawa-net.com/>



広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034